秋田大学概要

平成25年度

GENERAL INFORMATION BULLETIN 2013

AKITA UNIVERSITY 2013

秋田大学 概要 平成25年度

目 CONTENTS 次

01 学長あいさつ
02 基本理念・基本的目標・教育目標
04 第2期中期目標・中期計画

教育・研究・社会貢献・国際交流

07 独創的発想に富む科学者育成プログラム
08 最先端・次世代研究開発支援プログラム
09 秋田大学資源ニューフロンティア教員育成テニュアトラック制度
10 産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成プロジェクト
11 レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
12 あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース
13 秋田大学・秋田県立大学大学院共同教育課程 共同ライフサイクルデザイン工学専攻
14 社会貢献
16 国際交流

学部・大学院

19 教育文化学部／教育学研究科
20 医学系研究科・医学部
21 工学資源学研究科・工学資源学部

大 学 施 設

23 附属図書館
24 医学部附属病院
26 鉱業博物館
27 附属学校園及び教育研究施設等
28 学内共同教育研究施設
29 センター／技術組織
30 福利厚生施設等／体育施設
31 東京サテライト／横手分校・北秋田分校
32 インフォメーションセンター

33 就職支援活動
34 平成25年度主な課外行事

資 料 編

36 沿革
39 歴代学長
40 運営組織
41 教育研究組織
42 事務組織
43 役職員
44 学生の定員・現員
45 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
46 卒業者・修了者数／学位授与数
47 卒業者等就職状況
48 平成24年度学生表彰等受賞者
50 外国人留学生数／外国人研究員等
51 国際交流協定校
52 公開講座（平成24年度）
53 国内機関との連携・協力協定
54 役員数／教職員数
55 平成25年度予算／外部資金受入状況／平成25年度科学研究費助成事業採択状況
56 土地・建物
57 刊行物一覧
58 各連絡先・所在地一覧
59 手形地区施設配置図
60 本道地区施設配置図
61 保戸野地区施設配置図
62 アクセス

学長あいさつ

Message from the President

学長就任以来、早いもので6年目を迎えました。その間、社会情勢の大きな変化、まさに激動の年が続く中、国立大学を取り巻く環境も、グローバル化や少子高齢化が進み、依然として厳しい状況が続いています。

秋田大学は、「地域の活力を生み出すエンジンとなり、世界をリードする教育研究拠点の構築」を目標に掲げ、「世界に飛躍する大学作り」の実現のため様々な試みに挑戦し続けてきました。その中で、「国際資源学部の新設」と「教育文化学部及び工学資源学部の再編」を最重要課題に位置付けています。これまでの学部機能の抜本的強化と効率化を図り、日本の資源学の一大拠点となるべく、ナショナルセンター機能を有する国際資源学部を新設するとともに、地域に根ざした教育と研究の深化を目指し、リージョナルセンター機能を有する教育文化学部、理工学部及び医学部に再編し、平成26年度から4学部体制で、地域、そして国民の皆様から必要とされる大学となれるよう、目指してまいります。

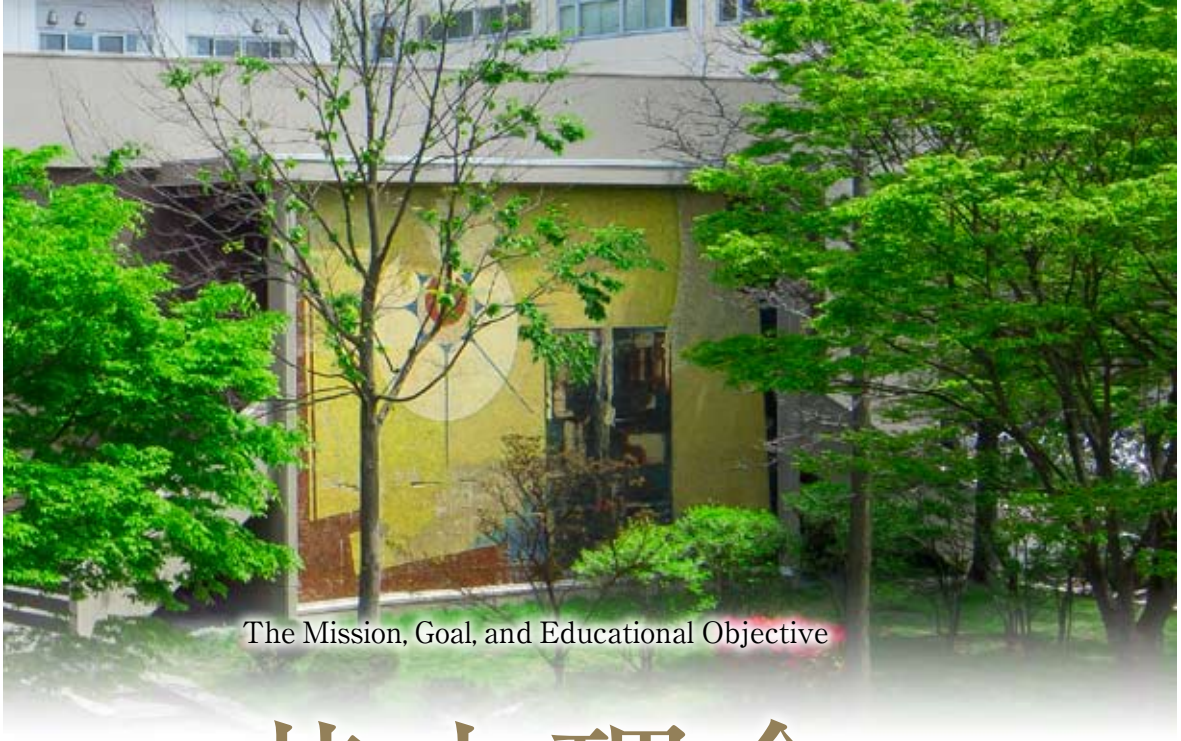
既に中期目標・中期計画期間の第2期目に入っていることから、一段と精度を高めた施策に取り組み、その具体策として、学習者中心の教育やFDの強化、就職支援はもとより、研究面では、連携型プロジェクトや資源リサイクルなどの教育を一層推進し、地域貢献では「横手分校」「北秋田分校」のほかに、東北公益文科大学と連携した「きたまえ塾」を強化し、リーダーシップを養成しながら、日本海地域の活性化も推進していきます。

また、全国トップレベルを誇る本県小中学校の学力を維持・発展させるため、附属学校園を活用しながら、本学主導のプログラム等も具体的な検討に入ります。

国際化では、平成24年10月に目標としていた留学生200名受け入れを達成し、キャンパスも一段と活気を帯びてきました。今後も協定校を増やしながら、留学生・外国人研究者の受け入れや本学学生の海外留学も推奨し、資源関係では、ボツワナ、モンゴル、カザフスタンなどの資源大国との連携を一層密にしていきたいと考えております。

地域・世界を視野に入れた独創的な挑戦。そこに集う者が誇りを持ち、社会にとって必要な存在になる。地方の国立大学に課せられた使命は重いだけではなく、ロマンに包まれています。

国立大学法人秋田大学長　**吉　村　昇**



The Mission, Goal, and Educational Objective

基本理念
基本的目標
教育目標

秋田大学は、次の基本理念を定め、

それを達成するための

５つの基本的目標をもって活動を推進します。

また、特に養成する人材像を

教育目標として定め、教育にあたります。

基本理念

1. 国際的な水準の教育･研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的目標

1. 「学習者」中心の大学教育を行い、幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備えた人材を養成します。
2. 基礎から応用までの研究、特に『「環境」と「共生」』を課題とした独創的な研究活動を行います。
3. 地域と共に発展し、地域と共に歩む「地域との共生」を目指します。
4. 国際的な教育・研究拠点の形成を目指し、地球規模の課題の解決に貢献します。
5. 学長のリーダーシップの下、柔軟で有機的な運営体制を構築します。

教育目標

学　部

1. 社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性、豊かな人間性と高度の倫理性を備え、社会の発展に貢献できる人材を養成します。
2. 地域の文化的･経済的発展に貢献できる人材を養成します。
3. 国際人として通用するコミュニケーション能力･異文化理解力を備えた人材を養成します。

大学院

1. 国際人として通用する、高度な専門性・独創性と倫理性を備えた人材を養成します。
2. 専門性の高い研究能力を備え、指導者になりうる人材を養成します。

第2期中期目標・中期計画

（平成22年4月1日～平成28年3月31日）

Mid-term Objectives and Plan

国立大学法人秋田大学の中期目標

（前文）大学の基本的な目標

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、地域と共に発展し地域と共に歩むという存立の理念を掲げる。この見地から本学は、地域の現実を踏まえた教育研究の場において、優れた人材の育成に努めるとともに、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れることに努める。そのために、他の高等教育機関との連携による柔軟な組織づくりを推進する。

人材育成については、本学を構成する教育文化、医、工学資源の三学部は、それぞれ固有の専門教育によって、さらには諸学諸組織の融合を通じて、地域社会を担う専門的職業人と国際社会に活躍する高度専門職業人及び学術を担う研究者を育成する。このためには、主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育が不可欠である。こうした基本認識に立って、秋田大学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学習者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念と指針に基づいて、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、その内容と質が国際的に通用する水準を維持するように努め、時代の諸課題に取り組む人材を育成する。

2. 研究においては、地域の現実から人類的諸課題へ視野を拡大させた、特色ある研究活動を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会貢献においては、大学開放事業の推進や医療・福祉の充実、教育・産業振興に参画し、地域の羅針盤としての役割を果たす。
4. 国際化においては、学生教職員の海外留学・派遣を促進し、アジアの国々をはじめとした諸外国の留学生・研究者の受け入れの増加と受け入れ環境の整備に努める。
5. 大学経営においては、学長の指導力を高め、迅速な意思決定の下に、諸資源を効果的に投入することにより、存立基盤を充実させる。

中 期 目 標

Ⅰ 大学の教育研究等の質の向上
Ⅱ 業務運営の改善及び効率化
Ⅲ 財務内容の改善
Ⅳ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
Ⅴ その他業務運営
に関する目標を達成するためにとるべき措置として、61項目の中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
〈ホームページ〉http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教育研究

独創的発想に富む科学者育成プログラム
～出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト～

最先端・次世代研究開発支援プログラム

秋田大学資源ニューフロンティア育成テニュアトラック制度

産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成プロジェクト
～キャリア教育の体系化と充実を図る取り組み～

レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム

あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース

秋田大学・秋田県立大学大学院共同教育課程共同ライフサイクルデザイン工学専攻

社　会　貢　献

国　際　交　流

文部科学省　理数学生育成支援事業

独創的発想に富む科学者育成プログラム～出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト～

（実施期間：平成23年度採択～平成26年度）

理数学生育成支援事業について

文部科学省では、平成19年度から「理数学生応援プロジェクト」を開始し、教育プログラムの開発・実践など理数分野に関して強い学習意欲を持つ学生の意欲・能力を更に伸ばすための取り組みの開発を行ってきました。

本事業では、意欲ある学生を更に伸ばす取り組みを各大学に普及するため、体系的な教育プログラムを提供し、将来の科学技術を担う人材を育成することを目指す大学の取り組みを支援します。

独創的発想に富む科学者育成プログラム
－出る杭を伸ばすヘリックスプロジェクト－とは？

本プログラムは、物理、化学、生物、地学、数学（情報）に関して優れた能力・意欲を持つ学生をAO及び一般入試から選抜し、大学1年次から特別のカリキュラム・セミナー・早期研究室配属等の機会を体系的に提供することで国際的に活躍できる独創性に富んだ研究者の育成を目指します。特別教育カリキュラムとして、通常のカリキュラムのほかにアドバンストコースを設置しています。

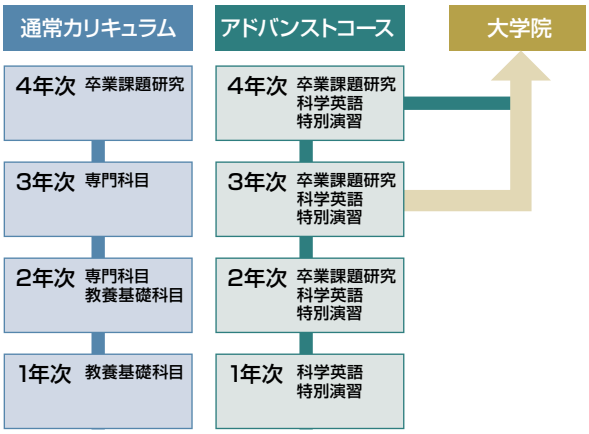
なお、プログラムの対象となる学科は、地球資源学科、環境応用化学科、生命化学科、情報工学科、機械工学科、電気電子工学科の6学科です。

ドイツのフライベルク工科大学を訪問（平成25年3月）

アドバンストコースの概要

アドバンストコースの学生は、通常のカリキュラムのほかに、

- ●1年次よりネイティブ英語教員による科学英語の授業を必修とし、主としてヒアリングと会話を中心とした英語のプレゼンテーション能力を修得させます。また、1年次より海外の大学を視察するとともに、国際研究環境を体得させます。
- ●2年次より研究室に配属させるとともに、授業の空き時間を利用し、外国文献講読と実験技術を習得させます。
- ●年2回（夏季休業及び冬季休業前）の学科を越えた英語による公開研究発表会を必修としています。
- ●3年次より、大学院授業科目を受講可能とします。
- ●2年次より国内の学会・研究会に参加するとともに、3年次と4年次の優秀な学生には、国際研究集会に参加・発表させます。
- ●3年次までの研究を通じて、学業成績が優秀で、かつ国際学術誌に投稿できる内容の研究を行った学生には、英語論文を作成させ投稿させるとともに、早期卒業制度を利用し、3年次終了時点で大学院入学を認めます。



科学英語の講義の模様

最先端・次世代研究開発支援プログラム

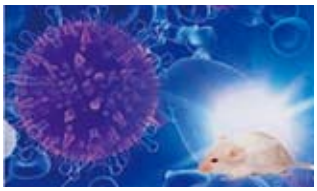
（実施期間：平成22年度採択～平成25年度）

最先端・次世代研究開発支援プログラムとは?

最先端・次世代研究開発支援プログラムは、将来、世界をリードすることが期待される潜在的可能性を持った研究者に対する研究支援制度であり、「新成長戦略（基本方針）」（2009年12月30日閣議決定）において掲げられた政策的・社会的意義が特に高い先端的研究開発を支援することにより、中長期的な我が国の科学・技術の発展を図るとともに、我が国の持続的な成長と政策的・社会的課題の解決に貢献することを目的としています（日本学術振興会ホームページhttp://www.jsps.go.jp/j-jisedai/gaiyou.htmlより抜粋）。

秋田大学では3名の教員がこのプログラムに採択されており、その最先端の研究の概要を紹介します。

医学系研究科 教授 今井 由美子



新型肺炎（SARS）やH5N1鳥インフルエンザをはじめとした新興ウイルス感染症は、ヒトにおいて重症型の呼吸不全や多臓器不全などの重篤な疾患を引き起こすことがあります。

しかしながら、そのメカニズムは十分解明されておらず、重症化すると決め手となる有力な治療法がありません。ウイルスが宿主（ヒト）の体内に侵入すると、ウイルスを構成しているタンパク質と宿主のタンパク質の相互作用から病気を引き起こす生体シグナルのネットワークが形成されます。

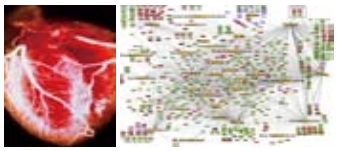
本研究では、脂溶性分子によるシグナル伝達に焦点を当て、ウイルスがヒトに重篤な呼吸不全や多臓器不全を引き起こす仕組みを解明し、重症化の予測が可能となるようなバイオマーカーの同定、治療法の開発を目指しています。

本研究成果は、ウイルスに対する生命体の応答システムの真の理解、さらに未だ治療法のない重症ウイルス感染症の新しい治療法の開発に繋がることが期待されます。

医学系研究科 准教授 久場 敬司

ヒトゲノム解読により遺伝子が全て明らかになり、心筋梗塞、心筋症や不整脈といった心臓病の発症、重症化の原因となる遺伝子が次々と報告される一方で、心臓の遺伝子全体の動きや遺伝子の機能的な相互作用は不明なままです。そこで、ショウジョウバエの遺伝子8,000個について、RNA干渉で遺伝子を1つずつ破壊し、そのハエを実験的な心不全モデルで調べることにより、心機能調節における遺伝子ネットワーク予想図を作成することに成功しました。

本研究は、このハエでの検討をもとに、ヒトに近いマウスで多数の遺伝子をRNA干渉という方法で破壊し、心臓病モデルでそのマウスの心機能を調べることにより、心臓病の原因や病態の理解を大きく前進させようという世界初の試みです。

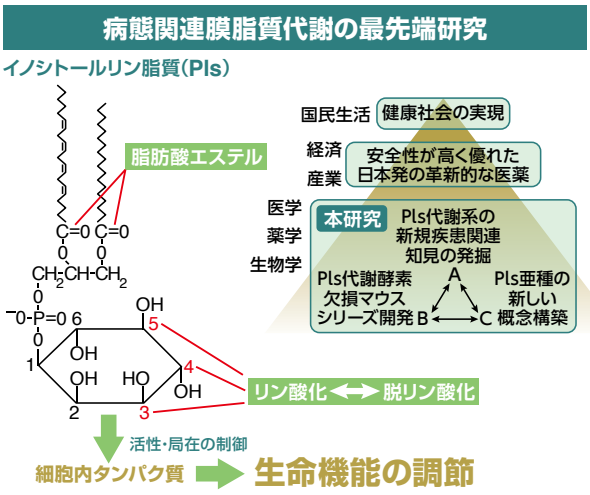


本研究により心臓病の未知のメカニズムが解明され、新しい創薬ターゲット候補を戦略的に同定することが期待されます。

医学系研究科 教授 佐々木 雄彦

細胞の機能が乱れて引き起こされる癌、脳卒中、心不全といった病気の克服は、世界的な課題です。これらの病気については、新しい原理に基づく医薬の開発が望まれています。最近の研究で、“ホスホイノシタイド”という細胞膜の脂質群が、様々な細胞機能を司ることが分かってきました。この脂質群の生成や分解に関わる酵素は、幅広い疾患の新しい治療薬の作用点として有望と考えられます。

本研究では、ホスホイノシタイド代謝酵素をもたないマウスを独自に創出して、ヒト疾患のモデル動物として活用することで、これまで不明であった個々の酵素に特有の機能や病態発現の機構を、世界に先駆けて解明します。その成果は、治療効果に優れ安全性が高い医薬の創製につながり、我が国の、そして、世界の人々の健康な生活に貢献することが期待されます。



文部科学省　科学技術人材育成費補助金　テニュアトラック普及・定着事業

秋田大学資源ニューフロンティア教員育成テニュアトラック制度

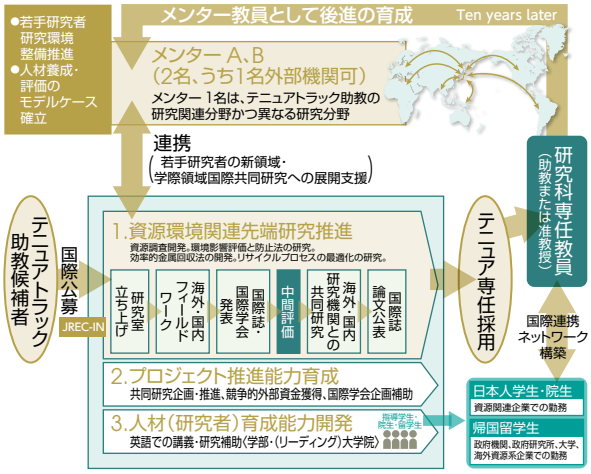
（実施期間：平成23年度採択～平成27年度）

テニュアトラック制度

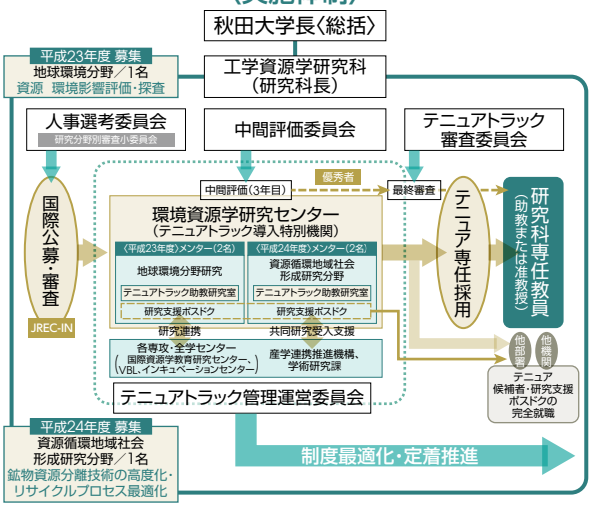
テニュアトラック制度は、公正で透明性の高い選考により採用された若手研究者が、安定的な職を得る前に任期付の雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組みのことです。

秋田大学では、大学院工学資源学研究科附属環境資源学研究センターを制度導入機関とし、「資源学と工学に基盤を置く新領域・学際領域への国際共同研究への展開」と「国際的資源学教育拠点形成に資する若手研究者・技術者の育成指導」ができる研究者の養成を目指した「秋田大学資源ニューフロンティア教員育成テニュアトラック制度」が文部科学省科学技術人材育成費補助金テニュアトラック普及・定着事業に選定され、国の支援を受けながら若手教員の人材育成に取り組んでいます。

〈制度の概要〉



〈実施体制〉



秋田大学の取り組みの特徴

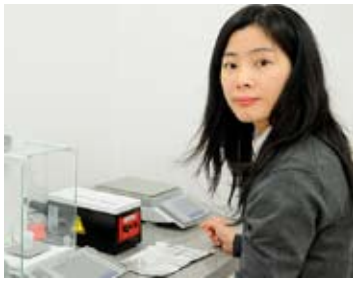
先端的研究の推進を中心としながらも、教員のプロジェクト推進能力の育成（共同研究の推進，競争的外部資金獲得、国際的活動推進の中で育成）、人材育成能力の育成（英語等による学生・院生・留学生への教育の中で育成）も併せて行い、将来のメンター教員としての資質を養成し、発展的人材育成循環システムの構築を目指しています。

テニュアトラック教員がこのような活動を通して、学生と優れた人間関係を築き、将来の資源の安定供給に資する人的ネットワークを構築していきます。また、制度を若手研究者の研究環境構築への配慮・支援と、教育・研究の展開に応じた人材養成・評価のモデルとして全学に定着させることも目指しています。

テニュアトラック教員の研究紹介

福山　繭子

テニュアトラック教員（助教）



日本の位置するようなプレート収束境界部は火山活動や地震活動の頻発域となります。これらの地質現象において、沈み込むプレート（岩石）に伴い、地殻やマントル内部に運搬される水が大きな役割を果たします。そこで、沈み込む深度に応じた流体と岩石の化学組成変化の研究や沈み込み帯で放出された流体によって生じる島弧マグマの研究から、地球内部のダイナミクスを解明しようと試みています。また、流体は鉱床を形成する際にも重要な役割を担います。そこで、鉱床地域における流体-元素反応から鉱床形成に必要な物理化学条件を特定することを目的に研究を行っています。

山田　学

テニュアトラック教員（助教）

現在のハイテク製品には多くの希少金属（レアメタル）が使用されていますが、レアメタルは世界的に埋蔵量が少なく、ある特定の資源国に偏在しています。他方、アーバンマイン（都市鉱山）と呼ばれる使用済みの電化製品等のハイテク製品には多くのレアメタルが含まれており、アーバンマインからレアメタルの回収・再利用を行う技術を開拓することは、日本の産業発展を支える非常に重要な技術です。そこで、短時間・高選択・高効率でレアメタルを抽出可能な金属抽出剤の開発を目指して研究をしています。

文部科学省　産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成プロジェクト～キャリア教育の体系化と充実を図る取り組み～

（実施期間：平成24年度採択～平成26年度）

これまでの取り組み【平成22年度～平成23年度】

現在、大学全入時代といわれる中で、経済状況の悪化による就職難や仕事の定着率が問題となっており、高校生のキャリア教育の必修化を皮切りにキャリア教育の重要性がますます高まっています。

秋田大学では、平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受け、“就業力の育成に重点を置いた大学教育改革”をテーマに掲げ、これまでのアカデミック能力に限らず、社会人として必要な基礎的能力（=就業力）及び個人の資質を高めるために大学生のキャリア教育を推進してきました。

平成22～23年度「大学生の就業力育成支援事業」の実績

①就業力育成に最適な教育・指導方法の企画と推進
- 秋田大学の教育・指導方法の現状把握のための教員アンケートの実施
- 教員アンケート結果による就業力を高めるための教育手法の共有

②就業力の育成に重点を置いた効果的なカリキュラムの編成
- コミュニケーション能力修得のための授業科目「日本語リテラシーⅠ、同Ⅱ」「コミュニケーショントレーニング」、就業力をテーマとする「就業力分析論」の開講
- 卒業生や企業等を対象とした就業意識に関するアンケート結果を踏まえた1～3年次まで一貫したキャリア形成科目のシラバス案作成

③高校と連携したキャリア教育
- 高校・大学間の連携によるキャリア教育の改善を図ることを目的に県内高校代表者と「キャリア教育に関する高大連携意見交換会」を開催

④就業力・社会人基礎力の育成に関するFDシンポジウムの実施
- 「学びの技法を考える」と題して、学内教職員の情報・意識の共有化を目的に開催

⑤就業力・社会人基礎力を育む教育プランの学生への提示とガイダンス
- 就業力育成に関する「就業力ガイドブック」を作成のうえ、本事業対象学部・学科の学生に配付

⑥キャリアポートフォリオ・システムの導入及び有効システムの企画
- 学生自らがキャリア形成を構築することをサポートし、教員が閲覧指導可能なシステムを導入
- 学生の自己成長の取り組みやその記録を“見える化”し、更なる自己成長を図るツールを企画

今後の取り組み【平成24年度～】

平成24～26年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

新たに、平成24年度文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の採択を受け（北海道・東北ブロックとして連携校16校と共同申請）、前述の取り組みを基盤に本学学生の現状と産業界のニーズをマッチングさせるために、次の4本の柱をテーマに取り組んでいます。

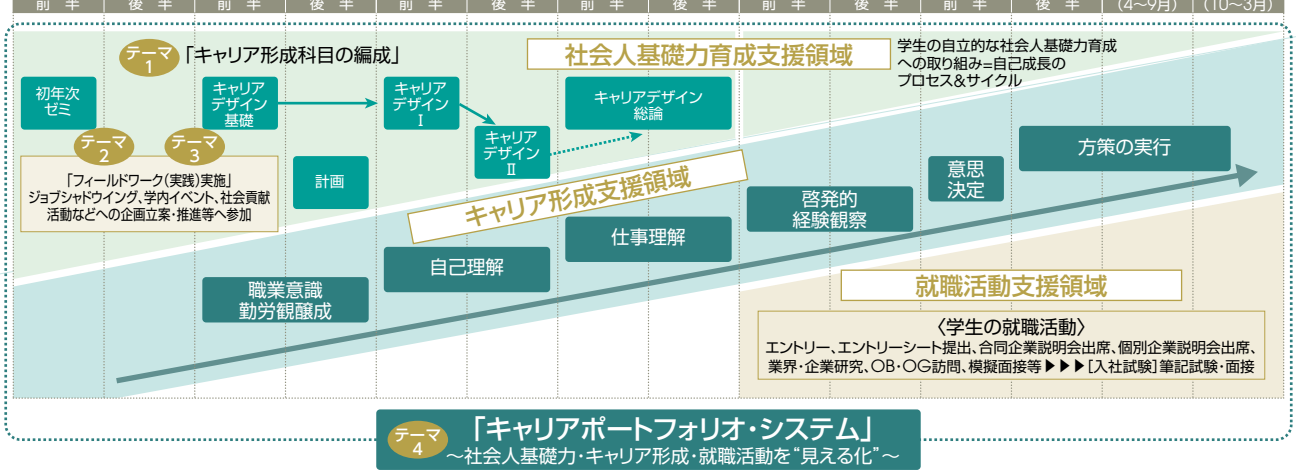
①社会人基礎力とキャリア形成を育む授業科目の編成
- 平成25年度入学者を対象に「キャリアデザイン基礎、同Ⅰ、同Ⅱ、同総論」から成るキャリア形成科目を新たに開講

②産業界や地域と連携したフィールドワークの実施
- 「キャリアデザインⅡ」の中で、自立的なキャリア形成を促す前提として、早期からの職業意識・勤労観を醸成することを目的にジョブシャドウィングを実施

③地域や高校との連携を通じての実践能力の修得
- 秋田大学で従来から実施している地域貢献活動等について実践能力を身に付けさせることを目的に学生主体で企画・運営

④キャリアポートフォリオ・システムの充実
- 平成24年度に一部学科を対象に実施したパイロット運用を通じた学生・教員からのヒアリングを踏まえ、より使いやすく能力の修得向上が期待できるシステムへの改善・充実を図る

秋田大学における学生支援と産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業のスキーム



文部科学省　大学が行う研究・教育への支援事業　博士課程教育リーディングプログラム【オンリーワン型】

レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム

（実施期間：平成24年度採択～平成31年度）

博士課程教育リーディングプログラムについて

文部科学省が行っている事業「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を、俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員や学生を結集し、産学官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程の前期後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

資源分野の国際教育研究拠点

～国内外フィールドを使った実践教育で応用力を育成～

5年間の博士課程教育プログラムでは、資源開発の現場である国内外フィールドを多用した実践教育を重視し、専門分野に限らずフィールドワーク、インターンシップを必ず経験します。大学内で得た知識や専門性を発揮し、新たな知識修得につなげるチャンスと言えます。海外の資源地質調査から生産現場、環境対策、資源リサイクルの事例を研究対象（実践舞台）として活用することで、応用力と実践力を身に付けます。

産学間連携とアウトカムズ

～幅広い知識によりキャリアパスを開拓～

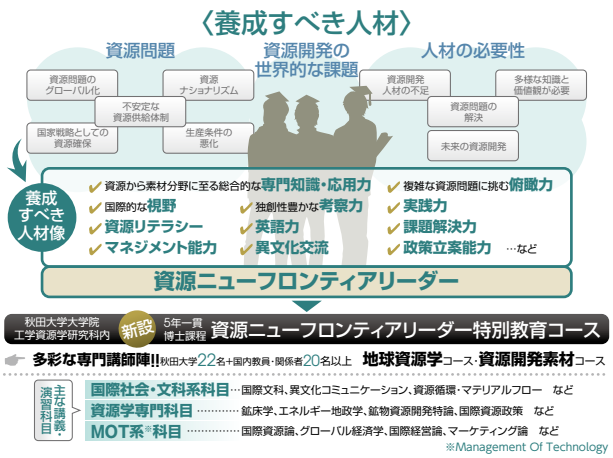
持続的な資源供給は世界的な課題です。グローバルな課題を認識し、資源開発の最前線に立つ人材になるには、自らの力を発揮するためのキャリアパスをどう描くかが重要になります。5年間の博士課程教育で思考が偏りすぎないよう、産学官からの協力を受け様々なキャリアパス事例を紹介します。また、留学生を含むコース生同士のグループワークや討議を通じ、学生自らがキャリアアップすると同時に、その能力を発揮するための支援を行います。修了生が資源開発の最前線に立ち、我が国のみならず資源の安定供給を支えるグローバルリーダーとして活躍することを確信しています。

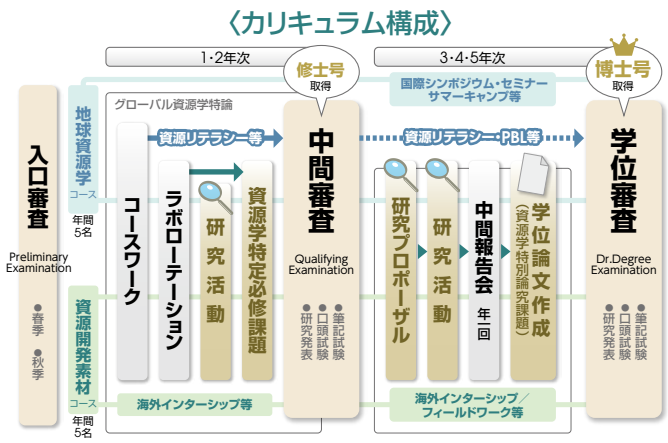
専門性を育む特別教育コース

～最新の講義と先進の研究により優れた専門性を修得～

100年の伝統を持つ鉱山・資源学の伝統を生かし、秋田大学リーディングプログラムでは「資源ニューフロンティア特別教育コース」に2つの専門コース「地球資源学コース」と「資源開発素材コース」を設置します。工学資源学研究科の関係専攻に所属する学生がコース生の対象となりますが、教育学研究科、医学系研究科、国際資源学教育研究センターという全学体制に加え、国内5大学、海外7大学から教員を結集し、資源に関する専門科目、社会系やMOT（技術経営）系科目、資源リテラシー学などに分類された専用コースワークを履修します。さらに専門性に応じた実験機材などの研究環境を整備。コースの枠を越えたラボローテーションや海外フィールドワーク、インターンシップなど、幅広い最新の研究活動を通じて専門性を修得します。また、奨励金など学修支援を行うサポート体制を整備するほか、資源開発人材のエキスパートになるための、5年一貫教育を支える学修環境が整っているのが特徴です。

本プログラムは、平成25年度から本格的にスタートします。国内外を問わず、若く優秀な人材が資源開発のリーダーになるべく秋田に集うことを期待しています。





履修証明プログラム

あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース

秋田大学大学院工学資源学研究科では、文部科学省の支援により平成20年度から平成24年度まで、秋田県における環境・リサイクル産業の振興・拡大及び環境教育等に貢献できる人材の養成を目的に、県と協力して「あきたアーバンマイン開発アカデミー」を開設しました。これまでに75名の受講生を養成し、修了生は各地で活躍しています。

平成25年度からは、県との連携により工学資源学研究科内にアカデミーを引き継ぐ形で履修証明制度による「あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース」を開講し、環境・リサイクルに関する基礎知識・応用技術、さらに国内外の社会・経済情勢などについて幅広く、かつ深い内容の講義を、その分野を専門とする講師により行います。また、県内における環境・リサイクル産業に関わる現況や課題を理解するため、リサイクル関連企業・施設でのフィールド研修、そして環境・リサイクルに関する各自のテーマによる課題研究を指導教員の指導下で行います。

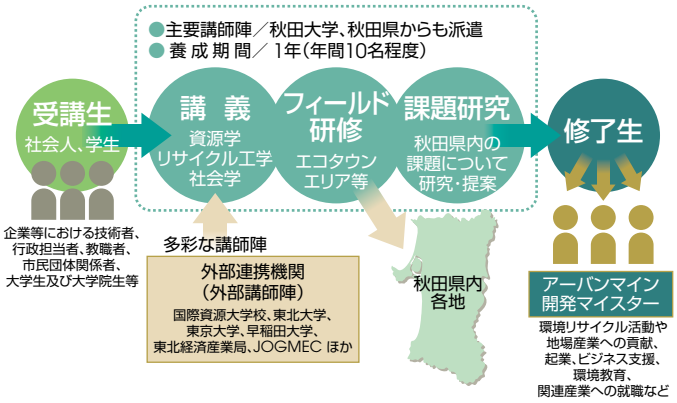
本コースの修了者には、教育プログラムの内容と質を保証した「履修証明書」を交付し、併せて秋田大学長と秋田県知事が認定する「アーバンマイン開発マイスター」の称号を授与します。

コースの概要

■受講期間　1年間（ただし、2年間の在籍を認めます）
■定　　員　10名程度
■履修資格　①大学を卒業した者
②個別の審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者（事前連絡必要）
③その他大学院学則に規定する者
■履修の許可　履修の許可は、受講志願者が提出した書類による審査および面接を行い、その結果に基づいて研究科長が許可します。
■開講式および修了式
開講式は毎年4月下旬頃、
修了式は3月中旬頃に行います。
■受 講 料　1年間　30,000円（本学の学生は無料です）
■講義の場所と時間
秋田大学手形キャンパス
（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーのセミナー室 ほか）
原則として、9:00～16:15

●お問い合わせ先
秋田大学大学院工学資源学研究科　大学院担当
TEL.018-889-2316　FAX.018-889-2300
E-mail : koudai@jimu.akita-u.ac.jp

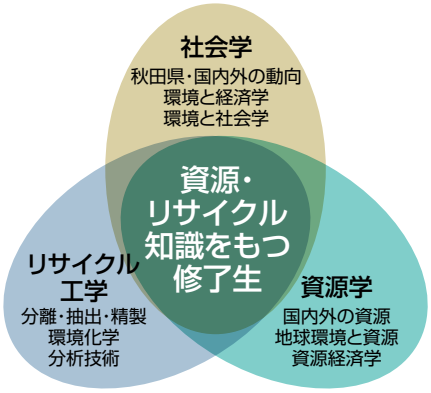
秋田大学と秋田県が協力して工学資源学研究科に開講
〈あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース〉



カリキュラムの構成

[講　　義]

資源学、リサイクル工学、社会学の3分野の科目を毎月2回、土曜日に集中講義で実施します。一部の科目は大学院前期課程と共通に受講します。



[課題研究]

得意な専門コースに分かれ、指導教員のもとで課題の探求と調査活動を行い、3月に成果を発表します（必修科目）。

[フィールド研修]

秋田県内のリサイクル関連企業や施設で実地研修を実施します（6、9、10月の3回を予定）。

修了後の活躍

本コース修了後は、秋田県の推進する環境・リサイクル産業での活動、ビジネス支援、環境教育支援、関連企業への就職等での活躍が期待されます。また、修了生の同窓会である「アーバンマイン開発マイスターの会」のネットワークを通じた情報交換や協力支援体制が整っています。

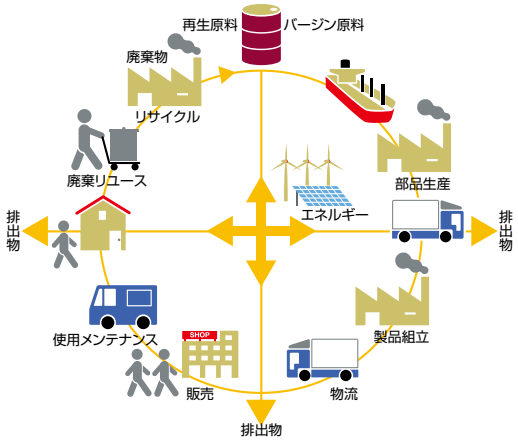
秋田大学・秋田県立大学大学院共同教育課程共同ライフサイクルデザイン工学専攻

共同大学院は、秋田大学大学院工学資源学研究科の特徴である資源・環境・リサイクルなどの研究分野と秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の特徴である経営工学研究分野の「強み」を融合し、機械・電気・情報工学などの共通する研究分野を包括した『共同専攻』として、製品の企画設計からリサイクルや廃棄に至るライフサイクルデザイン工学を体系化し、資源・環境工学から経営工学に及ぶライフサイクルデザインの広範囲で高度な知識を持つ『環境負荷の低減、循環型社会の形成に重要な役割を担う人材』を養成するものです。

近年、高度に発展を続ける現代社会においては、従来の枠組みでは対応しきれない新たな課題が多く見られるようになってきました。特に、環境に関連する要求が顕著になり、環境負荷の低減などの問題が日増しに強くなってきています。

昨今の社会情勢の変化は、化石燃料やレアアース等の大半を輸入に頼っている我が国においては無視できない問題になる可能性があり、循環型社会の形成という課題は、今後さらに重要な意味を持ってくるものと思われます。共同専攻は、このような社会的ニーズを考慮して設置されたものであり、国際的な視点から循環型社会の形成に貢献する人材の育成、及び環境に配慮しつつ地域社会の活性化に貢献する人材の育成を目標とするものです。

ライフサイクルデザインの概念図



ライフサイクルデザイン(LCD)工学とは?

資源の採掘、製品の企画・設計から廃棄・リサイクルに至るまでの「ライフサイクル」において、環境負荷の低減を考慮する工学の一分野です。両大学の機械、電子・情報系、秋田大学の資源環境、応用化学、土木系、秋田県立大学の建築、経営系の領域が融合した新しい工学です。工学の複合的な分野、境界を越えた分野を学ぶことで、循環型社会の形成に貢献する人材、環境に配慮しつつ地域社会の発展に貢献する人材等、産業社会における諸問題に対処できる人材の育成を目指しています。

共同専攻の概要

[共同ライフサイクルデザイン工学専攻]

国際的な視野から、循環型社会の形成に貢献する人材
環境に配慮しつつ、地域産業の活性化に貢献する人材

ライフサイクルデザイン工学専門科目

ライフサイクルデザイン工学課題研究
ライフサイクルデザイン工学セミナー

地域産業関係科目
地域産業再構築論など

ライフサイクルプランニングおよびその支援システム関連科目
ライフサイクルアセスメント、フォールト・トレランス工学など

高効率機器設計・生産・製造システム工学関連科目
電磁エネルギー変換工学、マイクロ加工学特論、次世代自動車工学など

資源・環境・材料・リサイクル工学関連科目
資源システム設計学特論、モレキュラー・エンジニアリングなど

ライフサイクルデザイン工学専門基礎科目
ライフサイクルプランニング基礎、ライフサイクルデザイン工学基礎

共通基礎・倫理関係科目
科学技術と倫理、地域社会と家族など

高専専攻科修了生を含む、電気電子・情報系、機械系、材料系、土木建築系、経営系などの多様な学生

[大学院博士前期課程組織図]

秋田大学大学院工学資源学研究科		共同大学院	秋田県立大学大学院システム科学技術研究科
地球資源学専攻	環境応用化学専攻	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	機械知能システム学専攻
材料工学専攻	情報工学専攻		建築環境システム学専攻
電気電子工学専攻	土木環境工学専攻		電子情報システム学専攻
生命科学専攻	機械工学専攻		経営システム工学専攻

社会貢献

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開し、また、高校生やその保護者あるいは小・中学生を対象とした企画も実施しています。

秋田大学の社会貢献事業

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

※平成25年度開講の講座は秋田大学HPをご覧ください。

■サテライト事業

秋田県内自治体や首都圏において、本学教員による講演会、子ども向け科学教室等を開催しています。本学と秋田県立大学、国際教養大学の3大学連携による市民向け講座も行っています。

■子ども見学デー

毎年夏休みに、小・中学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。

■小・中学生等の大学訪問受け入れ

総合学習や職場訪問等の一環としての小・中学生の大学訪問や、PTA研修等を随時受け入れています。職員が学内を案内したり質問に答えたりしながら、秋田大学を紹介します。また、要望があれば研究室を訪問し教員や学生へインタビューすることも可能です。

■自治体との連携

秋田大学が持つ教育・研究資源の提供と、地域活性化の促進を目的に、秋田県内自治体と連携協定を締結しています。「地域に根ざした大学」を目指し、公開講座の開催や学生の地域交流等による社会貢献を行っています。

平成25年5月1日現在、秋田県を含む13の自治体と連携協定を締結しています。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

平成23年度まで秋田大学大学院医学系研究科の教員が最新の医学研究の成果を分かりやすく解説し、参加者とその話題について自由に意見交換をする「秋田メディカル・サイエンスカフェ」を開催していましたが、平成24年度より新たな試みとして、教育文化学部の教員とのコラボレーションにより「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」として次の次元へと踏み出しました。気軽に参加いただけるように会場には飲み物を用意し、くつろいだ雰囲気で大学の研究資源を提供しています。

地域防災

1. 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査研究

①秋田県内の地震・防災について基礎的研究を行います。

②秋田県沿岸部で過去に発生した津波の分布範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。

③秋田県内に甚大な被害をもたらすと考えられる「内陸直下型地震」を引き起こす活断層について調査・研究します。

2. 防災について地域で活動できる人材の育成

①地震災害が発生した場合でも、地域住民らが減災活動を行えるように、自治体・町内会等で防災教育を実施します。

②県内の幼保小中高等学校で防災教育を実施します。

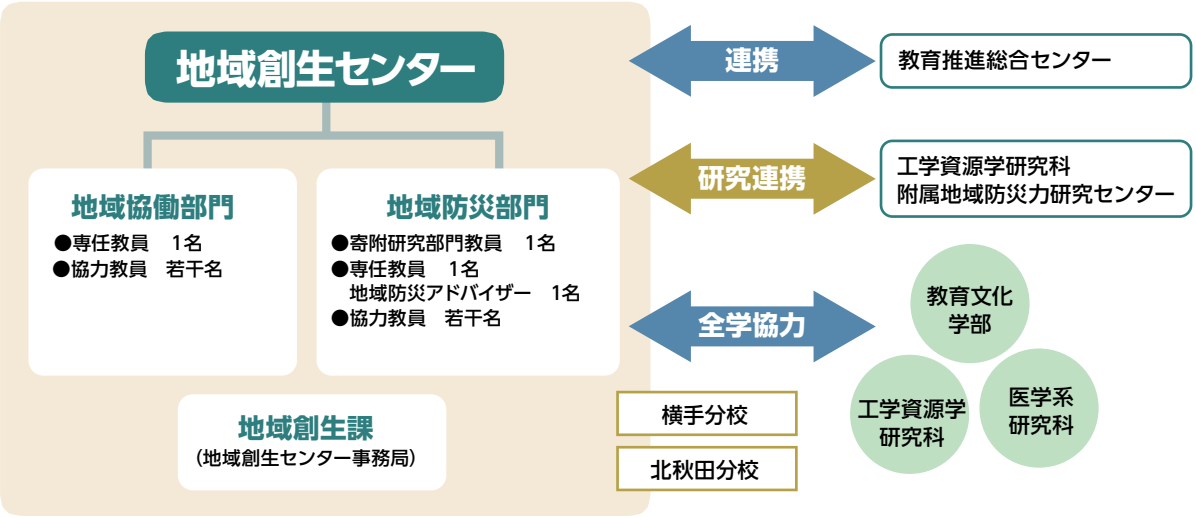
3. 県および市町村への防災施策に関する指導助言

①秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために必要な指導・助言を行います。

②県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。

地域との架け橋へ

地域創生センターは「地域再生のための知の創生の見地から、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言や地域の防災等に関する研究と支援等を行い、地域の発展及び安全・安心な地域社会の形成に寄与する」ことを目的に平成23年4月1日に設立しました。秋田大学が実施する「地域との連携・地域への貢献」活動について「地域協働部門」の活動を明確にすることで、地域の持続可能な発展について寄与していきます。また、平成23年9月1日には「地域防災部門」を開設し、地震災害について調査・研究し、地域の防災対策に取り組んでいます。地域創生センターは、地域が抱える問題を秋田大学の課題ととらえ、地域の方々と一つになって課題解決に取り組んでいきます。



国際交流

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

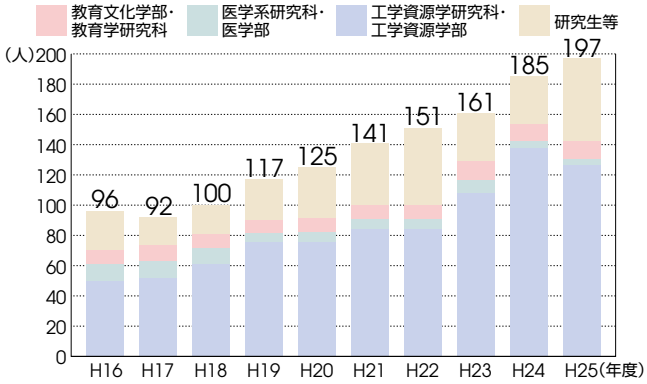
留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

また、平成25年度には、日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期受入れ)に、「アカデミック・ジャパニーズ習得のための特別交換留学プログラム(AUAJ)」が新規に採択されるとともに、「秋田大学国際交流体験プログラム(AUEP)」も4年連続で採択され、奨学金の受給枠が増えたことにより、協定校からの交換留学生の増加につながりました。AUAJは高い日本語運用能力と専門知識をもった人材の育成、AUEPは体験型マルチリンガル授業や英語による専門的な授業により、コミュニケーション能力の獲得や秋田の文化に対する理解を目指すプログラムとなっています。

平成22年4月には、多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が設置され、海外留学説明会・報告会や日本人学生と留学生との交流イベント「留学生とランチ」を定期的に開催しています。

〈留学生数の推移〉



留学生とランチ[多文化交流ラウンジ]

国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年約4名程度、計16名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往復に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成24年度は13名に対して支援を行いました。

海外留学説明会(平成25年5月22日)

世界に広がる学術ネットワーク

今まで大学間協定は21カ国・地域43大学、部局間協定は8カ国・地域15学部等となりました（平成25年5月1日現在）。また、モンゴル科学技術大学内に、秋田大学初の海外拠点「秋田大学モンゴル事務所」を開所しました（平成24年10月）。

今後も、協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。

「秋田大学モンゴル事務所」開所式（平成24年10月8日）

資源に挑む　秋大の「舞台」は世界へ

資源を持たない日本が、いかに資源を獲得するか。レアメタル、資源ナショナリズム、都市鉱山といったキーワードがメディアを飾る今日、世界が資源を軸に回っているのは誰の目にも明らかです。各国が資源の「争奪戦」を繰り広げる中、秋田大学の存在感が高まっています。

資源探査、採鉱、選鉱という資源開発の一連の流れを学べる国内唯一の大学である秋田大学、ここに全国から資源分野における第一人者が集まり、日本を含む世界から留学生、研修生、研究員を受け入れて、資源開発のエキスパートを育成しています。

この取り組みの中心となっているのが、平成21年10月に設置した秋田大学国際資源学教育研究センターです。資源学研究に特化し、資源開発における研究拠点を目指しています。工学資源学部を母体とするセンターですが、センター教員が長期出張しやすいようにと、全学センターの施設としています。

センターが現在、力点をおいているのが、資源保有国への技術支援です。センターの設置は、アフリカの資源国・ボツワナ共和国政府から秋田大学に、資源系技術者を育成して欲しいという要請を受けたのが発端でした。

自国で資源を持ちながら開発に困難をともなう国々へのノウハウ提供。ボツワナ以外にもモンゴル、カザフスタン…。他の資源未開発国への技術支援も始まっています。

前身の秋田鉱山専門学校創立から数え、100年以上の歴史を誇る秋田大学。地方の大学でありながら、いわば「資源外交」の一翼を担う立場として英知を集結し、将来につなげようとしています。

知の協力が、日本の資源セキュリティー・安定供給体制の確立につながっていきます。秋田で長年培った技術が世界に挑みます。

学部・大学院

教育文化学部
教育学研究科
Faculty of Education and Human Studies
Graduate School of Education

医学系研究科・医学部
Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine

工学資源学研究科・工学資源学部
Graduate School of Engineering and Resource Science
Faculty of Engineering and Resource Science

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成と地域社会、国際社会、環境関連分野で活躍できる人材の養成を目的とし、4つの課程で構成されています。

学校教育課程　次世代を育てる教員の養成

1. 幅広い社会的視野にたって、子どもの心を理解する柔軟性のある教員
2. 今日の教育的病理を克服しうる指導力・問題解決能力を備えた教員
3. 情報化社会に対応して、情報処理および活用能力を備えた教員
4. 地域的課題を理解し実践できる教員

地域科学課程　地域活性化に貢献する人材の養成

1. 高齢化、過疎化、国際化、情報化の現状と課題をとらえ、地域社会の活性化に向けて、企業や行政など多様な分野で活動することができる人材
2. 住民の豊かな生活を保障する地域社会の構築のために、生活者の視点から、高齢化、少子化、過疎化の現状と課題をとらえ、地域活動計画を立案し実践できる人材
3. 地域文化を発見・再評価し、新たな文化資源・環境のあり方やその活用方法を提示できる人材

国際言語文化課程　国際交流に貢献する人材の養成

1. 日本・アジア・欧米各国の文化の交流と相互理解の促進をはかることによって、地域における国際交流に貢献できる人材
2. 環日本海地域の歴史文化と国際関係の理解にたって、当該地域の地域間協力・交流システムづくりに貢献できる人材
3. 海外諸国において、日本文化の深い理解とコミュニケーション能力を基礎として異文化間交流に携わる人材
4. 英、独、仏、露、中、朝鮮語、さらには古典ギリシア語、ラテン語、ヘブライ語の習得により、外国語を活かせる分野で活躍できる人材

人間環境課程　人間生存環境を構築する人材の養成

1. 人間の生活と自然資源・景観とのかかわりを総合的に理解したうえで環境アセスメントをおこない、望ましいアメニティを提案することができる人材
2. 人間の生活を支える生物環境資源の調査・分析をおこない、それらの資源の持続的利用・管理のための方策を提示できる人材
3. 自然と地域の相互関係を理解したうえで、自然生態系の保全のあり方を提示しうる人材
4. 人間の生存環境を数理的・工学的に理解・処理することを通して、自然環境の急速な変化に対応できる生活防衛システムづくりや情報化社会における人工環境のシステム構築に貢献できる人材

課　程	選　　修	講　　座
学校教育	教科教育実践	教科教育学　音楽教育 美術教育　スポーツ・健康教育
	障害児教育	障害児教育
	発達科学	発達教育 教育心理学
地域科学	政策科学	政策科学
	生活者科学	生活者科学
	文化環境	文化環境
国際言語文化	日本・アジア文化	日本・アジア文化
	欧米文化	欧米文化
	国際コミュニケーション	国際コミュニケーション
人間環境	自然環境	自然環境
	環境応用	環境情報 基礎数理

教育学研究科

大学院教育学研究科は、平成元年に2専攻5専修で創設し、現在では学校教育専攻2専修、教科教育専攻9専修からなります。

本研究科は、21世紀の初等中等教育を担う優れた質の高い教員の養成を目的としており、現職教員の受け入れのほか、海外からの留学生受け入れも積極的に進めています。修了者は学校現場、県教委等で指導的な役割を果たしています。

また、心理教育実践専修の臨床心理学分野は、日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士受験資格について、第1種指定校と認定されています。

学校教育専攻

学校教育専攻は、学校教育専修と心理教育実践専修の２つの専修で構成されており、教科指導とは別の観点から、現在の学校教育を研究していきます。

近年の学校教育をめぐる諸問題は多様化・複雑化しており、教師には高度な教科専門知識に加え、子どもの発達やそれを取り巻く社会・家庭環境を幅広くとらえる視点、カウンセリングマインド、発達障害などの正しい理解と高度な対応力が求められています。学校教育専攻では、確かな実践的資質と現代の教育課題への柔軟な対応能力を備えた教員を養成しています。

教科教育専攻

教科教育専攻は、国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修、家政教育専修、英語教育専修の9専修で構成されています。各専修は学校の教科指導の専門性を高めるための研究と実践を行っています。また、今日の多様な教育課題や様々な教育ニーズに応えるための人材育成をめざし、教科間連携による総合的・多角的なアプローチを行って課題追究や課題解決を図る研究・実践も展開しています。

課　程	専　攻	専　　修
修士課程	学校教育専攻	学校教育専修
		心理教育実践専修
	教科教育専攻	国語教育専修
		社会科教育専修
		数学教育専修
		理科教育専修
		音楽教育専修
		美術教育専修
		保健体育専修
		家政教育専修
		英語教育専修

医学系研究科

平成21年4月より大学院部局化し、大学院の教育研究を重視する機構改組を行いました。基礎と臨床の研究者が連携協力して、プロジェクト研究を推進することを目指します。

大学院医学系研究科では、最先端の医学・医療を学ぶ向上心と意欲を修得させるとともに、国際的視野に立ち、専攻分野あるいはその隣接領域について自立した研究活動を行い、高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する研究・教育者あるいは高度職業人を養成します。

課　程	専　攻
博士課程	医学専攻
博士後期課程	保健学専攻
博士前期課程	
修士課程	医科学専攻

医　学　専　攻

医学専攻は、人類の健康・福祉と生命科学の発展に貢献できる国際的視野を備えた研究者を養成し、高度先進医学・医療を推進することにより、地域における医学・医療の中核として役割を担いうる医師・医学者を養成することを目的とします。

系	講　座
病態制御医学系	形態解析学・器官構造学
	細胞生物学
	細胞生理学
	器官病態学
	分子機能学・代謝機能学
	生体防御学
	内分泌・代謝・老年内科学
	感染・免疫アレルギー・病態検査学
	麻酔・蘇生・疼痛管理学
	放射線医学
	眼科学
	精神科学
	微生物学
	救急・集中治療医学
腫瘍制御医学系	分子生化学
	分子病態学・腫瘍病態学
	消化器内科学・神経内科学
	血液・腎臓・膠原病内科学
	消化器外科学
	呼吸器・乳腺内分泌外科学
	腎泌尿器科学
	臨床腫瘍学
	地域がん包括医療学

系	講　座
機能展開医学系	器官・統合生理学
	心臓血管外科学
	整形外科学
	皮膚科学・形成外科学
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	脳神経外科学
	循環器内科学・呼吸器内科学
	情報制御学・実験治療学
	小児科学
	産婦人科学
	小児外科学
社会環境医学系	法医科学
	環境保健学
	公衆衛生学
	医学教育学
	地域医療政策学
協力部門 臨床教育	薬剤学
	医療情報学
	歯科口腔外科学

※脳循環代謝動態学　連携大学院

保　健　学　専　攻

保健学専攻は、博士前期課程と博士後期課程を開設しております。

豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する充分な理解と確かな医療技術のもとに、創造性に富む研究によって保健学の発展に貢献できる研究者、葛藤を持つ学習者に共感し援助できる教育者、高度な知識と技術と倫理性を備えて実践の場で自立して研究活動ができ、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた高度専門職者を育成します。

講　座	分　野
基礎看護学講座	健康科学分野
	基礎看護学分野
臨床看護学講座	成人看護学分野
	精神看護学分野
母子看護学講座	母性看護学分野
	小児看護学分野

講　座	分　野
地域・老年看護学講座	地域看護学分野
	老年看護学分野
理学療法学講座	基礎科学分野
	臨床理学療法学分野
作業療法学講座	基礎科学分野
	臨床作業療法学分野

医　科　学　専　攻

医科学専攻は、医学関連分野における領域横断的な諸問題の解決に有用な幅広いバックグラウンドを持った人材を養成します。

医　学　部

医　学　科

医学科では、医学や関連科学の知識や医療技術を確実に修得した上で、豊かな教養と高い倫理性を身に付け、臨床研修や基礎研究を始めるために確かな意欲と能力を持つ人材を育成することを目標としています。同時に、高度先進医学・医療を推進し、地域社会における医療・福祉の充実に貢献することも目指しています。また、バイオサイエンス教育・研究センターと有機的に連携しながら、教育および研究の充実・発展を図っています。

保　健　学　科

保健学科は、看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻の3専攻からなります。

保健学科は、豊かな感性、高い教養と倫理性、医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身に付け、国民の健康と医療・福祉に貢献できる医療技術者、並びに教育・研究の発展に寄与できる創造性豊かな人材を育成します。

また、教育の礎となり、健康科学に広く関わる知識と技術の発展に資する研究を目指し、社会に貢献します。

医学部の教育は、大学院教員が兼務する医学教育部が行います。なお、医学部には、平成25年4月現在で4つの寄附講座を設置しています。

寄附講座	寄附者
総合地域医療推進学講座	秋　田　県 ※平成20年10月1日～平成30年3月31日
地域医療連携学講座	秋　田　県 ※平成22年7月1日～平成26年3月31日
腎置換医療学講座	アステラス製薬、中外製薬、日本化薬、扶桑薬品工業、大沢商事 ※平成20年10月8日～平成25年10月7日
病態代謝栄養学講座	三和化学研究所 ※平成22年4月1日～平成27年3月31日

工学資源学研究科

大学院工学資源学研究科は、教育プログラム編成の自由度を増し教育研究の活性化を図るため、平成22年4月より大学院部局化に移行しました。工学資源学部の設立理念に立ち、新しい研究領域を創出するため、前期課程は学部の学科に対応する8専攻と、秋田県立大学との共同大学院である共同ライフサイクルデザイン工学専攻の9専攻で、新たな理念に基づいた後期課程は4専攻で構成されています。

また、平成24年に文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムに採択され、5年一貫教育システムの資源ニューフロンティアリーダー特別教育コースをスタートさせました。本コースは、「地球資源学」「資源開発素材」の2コースによって構成され、資源の専門性と応用力、実践力を修得したグローバルリーダーの育成を目的としています。

○前期課程各専攻

国際的に活躍する資源専門技術者、環境技術や先端化学技術に貢献する専門技術者、先端機能材料の開発を目指す専門技術者、マルチメディア社会に即応できる専門技術者、人と環境にやさしい機械システムの開発に貢献できる専門技術者、創造的エレクトロニクス専門技術者、ノーマライゼーション理念で社会基盤設計を行う専門技術者の養成。

平成20年4月には専門知識を事業・経営に活かしてマネジメント力を発揮できる人材養成のため研究科に「MOTコース」を開設。平成24年4月には環境応用化学専攻、生命科学専攻、共同ライフサイクルデザイン工学専攻を設置。平成25年4月には、秋田県における環境・リサイクル産業の振興・拡大及び環境教育等に貢献できる人材の養成を目的に、本学履修証明制度による「あきたアーバンマイン養成コース」を開設。

課程	専　攻	講　　座
博士前期課程	地球資源学	応用地球科学　地球システム工学
	環境応用化学	分子化学　化学工学
	生命科学	生命科学
	材料工学	材料物性学　エネルギー材料学 知能材料学　材料開発工学
	情報工学	情報工学　数理科学
	機械工学	機械物理工学　システム設計 機械ダイナミクス ロボティクス・福祉工学
	電気電子工学	電気エネルギー工学　光・電子デバイス工学 知能情報通信工学　制御システム工学
	土木環境工学	福祉環境工学　地域環境工学 環境構造工学
	共同ライフサイクルデザイン工学	ライフサイクル戦略学 環境調和型システム工学

○後期課程各専攻

地球の資源・物質環境を考えた総合的な資源学の体系化、物質に関する広範囲の知識を総合した開発、組織的なものづくりと生活基盤整備、電気電子技術を基盤とした情報技術の開発。

平成19年10月には、国際的に活躍する人材養成のため「英語による特別コース」を開設。

課程	専　　攻	講　　座
博士後期課程	資源学	資源地球科学　環境資源サイクル工学 資源環境学
	機能物質工学	機能材料工学　環境応用化学
	生産・建設工学	生産システム工学　福祉システム工学 社会基盤工学
	電気電子情報システム工学	電気情報基盤システム工学 電子情報基盤システム工学

工学資源学部

工学資源学部は、地球環境と調和のとれた資源学と、豊かな人間性を支える工学の発展に寄与できる技術者および研究者の養成を行います。

資源系では地球規模となった資源・環境・エネルギー問題の解決のための教育・研究の発展を図り国際的に活躍できる資源技術者の養成を行います。一方、理学および工学系においては、先端分野・学際分野への展開を継続しながら、地域の課題である高齢化・防火への対応や新たな産業の創出などへ寄与できる教育・研究分野の充実を図り、地域の産業を担う人材の養成を行います。

平成21年には、リサイクルと製錬技術とを融合した資源循環型の技術開発に貢献することを目的に、「リサイクルプロセシング講座」（寄附講座）を設置しました。

教育と研究の基本的な視点

1. グローバリゼーション時代の資源学への対応
2. 社会の養成に応える人材の養成
3. 地域社会への積極的な貢献

学部の特色

1. 幅広い入学者の受け入れ
2. 独創性、起業家精神の育成
3. 先端的研究の進展
4. 国際的な資源技術者の養成
5. 地域社会の問題への取り組み

具体的な教育カリキュラムの編成

1. 応用力や創造性を重視した専門教育（ものづくり基礎実践、プロジェクトゼミ、創造工房実習、フィールド実習、卒業課題研究など）
2. 社会における科学技術の役割の学習（環境と安全、技術者倫理、技術史、鉱業史など）
3. 国際性を養う専門教育（海外実習、テクニカルコミュニケーション、外国文献講読、TOEIC演習など）
4. プロポーザル能力の養成（研究プロポーザル、卒業課題研究など）
5. 情報処理能力の養成（情報処理の技法、初年次ゼミなど）
6. 職業意識を高める実践教育（テクノキャリアゼミ、インターンシップなど）
7. 大学、学部、学科を越えた履修範囲（自由科目、他大学との単位互換など）

学　科	講　　座
地球資源学科	応用地球科学　地球システム工学
環境応用化学科	分子化学　化学工学
生命化学科	基礎生命化学　応用生命化学
材料工学科	材料物性学　知能材料学 エネルギー材料学　材料開発工学
情報工学科	情報工学　数理科学
機械工学科	機械物理工学　機械ダイナミクス システム設計　ロボティクス・福祉工学
電気電子工学科	電気エネルギー工学　光・電子デバイス工学 知能情報通信工学　制御システム工学
土木環境工学科	福祉環境工学　環境構造工学　地域環境工学

寄附講座	寄附者
リサイクル プロセシング講座	DOWAホールディングス株式会社 ※平成21年4月1日～平成27年3月31日

工学資源学部 通信教育講座

秋田大学工学資源学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,700名以上の修了生を社会に輩出しています。

資源系、材料系、電気電子系の基礎および専門を学べる7つのコースと、科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースの、併せて8つのコースを開設しています。

大学施設

附属図書館

医学部附属病院

鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等
◯附属幼稚園 ◯附属小学校 ◯附属中学校 ◯附属特別支援学校
◯附属教育実践研究支援センター ◯附属病院 ◯附属病院シミュレーション教育センター
◯附属鉱業博物館 ◯附属地域防災力研究センター
◯附属環境資源学研究センター ◯附属ものづくり創造工学センター

学内共同教育研究施設
◯生体情報研究センター ◯総合情報処理センター ◯ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
◯バイオサイエンス教育・研究センター ◯放射性同位元素センター ◯環境安全センター
◯ベンチャーインキュベーションセンター ◯産学連携推進機構
◯国際資源学教育研究センター ◯地域創生センター

センター
◯評価センター ◯教育推進総合センター ◯学生支援総合センター
◯教員免許状更新講習推進センター ◯国際交流センター

技術組織
◯総合技術部

福利厚生施設等
◯保健管理センター ◯大学会館（手形キャンパス） ◯本道会館（本道キャンパス）
◯学生寮 ◯国際交流会館 ◯留学生会館 ◯乳頭ロッジ

体育施設
◯陸上競技場 ◯野球場 ◯球技場 ◯ハンドボール場 ◯大体育館 ◯小体育館
◯柔剣道場 ◯弓道場 ◯テニスコート ◯プール ◯運動場

東京サテライト

横手分校・北秋田分校

インフォメーションセンター

附属図書館

University Library

本館(正面玄関)

●附属図書館は本館(手形キャンパス)と医学部分館(本道キャンパス)からなり、図書・雑誌・視聴覚資料・電子情報等の学術資料の体系的な収集管理と提供を行っています。

●蔵書冊数　本館:417千冊　医学部分館:108千冊

〈開館時間〉

区　分	授業期間 (試験期間)	長期休業期間
平　日	8:30～21:00 (8:30～22:00)	8:30～17:00
土・日・祝	10:00～17:00 (10:00～18:45)	休　館

●附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

- ●閲覧　●貸出・予約
- ●文献複写　●レファレンス
- ●蔵書検索　●各種データベース
- ●PC・電子黒板等の機器利用

本館閲覧フロア

特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています

本館ラウンジ

本館コモンズ

分館コモンズ

●詳細についてのお問い合わせは

〈本館・利用サービス担当〉
TEL.018-889-2279　E-mail : riyos@lib.akita-u.ac.jp

〈医学部分館〉
TEL.018-884-6052　E-mail : ibun@lib.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉
http://www.lib.akita-u.ac.jp/

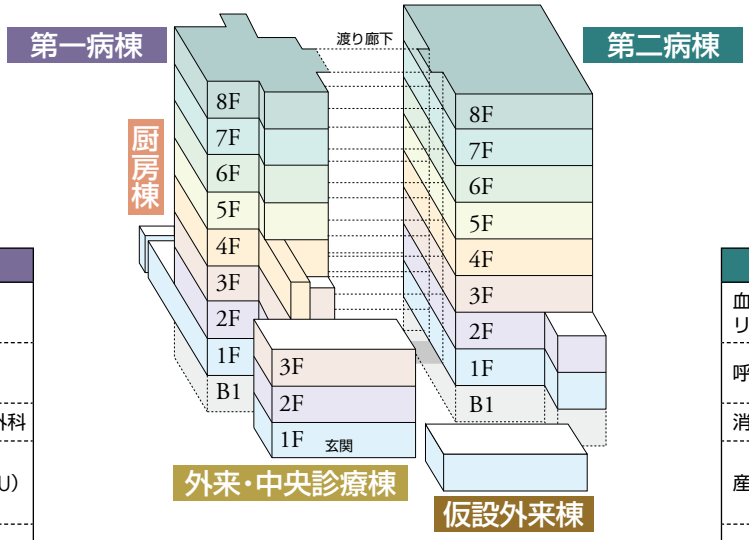
医学部附属病院

医学部附属病院（正面）

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成６年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉



平成25年4月1日現在

	第一病棟	外来・中央診療棟	第二病棟
8F	整形外科　神経内科		血液内科　腎臓内科 リウマチ内科
7F	眼科　呼吸器外科 乳腺・内分泌外科		呼吸器内科　耳鼻咽喉科
6F	消化器外科　麻酔科　食道外科		消化器内科　腫瘍内科
5F	小児科　小児外科 新生児集中治療管理室（NICU） 回復期治療室（GCU）		産科婦人科　周産母子センター
4F	脳神経外科　皮膚科 医療安全管理部　理容室		循環器内科　心臓血管外科
3F	集中治療部（ICU） 中央手術部	病理部　聴覚・嗅覚検査室　精神科　腫瘍情報センター　ひまわり学級 感染制御部　平衡機能検査室　皮膚科　緩和ケアセンター　けやき学校	精神科
2F	血液浄化療法部	消化器内科　糖尿病・内分泌内科　輸血部　薬剤部 神経内科　老年内科　中央検査部　心療センター 循環器内科　総合診療部　呼吸器外科　治験管理センター 呼吸器内科　脳神経外科　食道外科　相談支援センター 血液内科　眼科　乳腺・内分泌外科　外来化学療法室 腎臓内科　歯科口腔外科　看護部　栄養相談室 リウマチ内科	泌尿器科 糖尿病・内分泌内科 老年内科
1F	放射線診断科 放射線治療科 歯科口腔外科	耳鼻咽喉科　中央病歴部　心臓血管外科　リハビリテーション部 泌尿器科　売店　薬剤部外来窓口　リハビリテーション科 産科　消化器外科　サービスコーナー　コーヒーショップ 婦人科　腫瘍内科　中央放射線部　休憩コーナー	救急部 救急科 救急外来 内視鏡・超音波センター
B1	医療情報部　電子計算機室 放射線治療センター 中央材料部　SPDセンター		臨床工学センター

厨房棟：栄養管理部

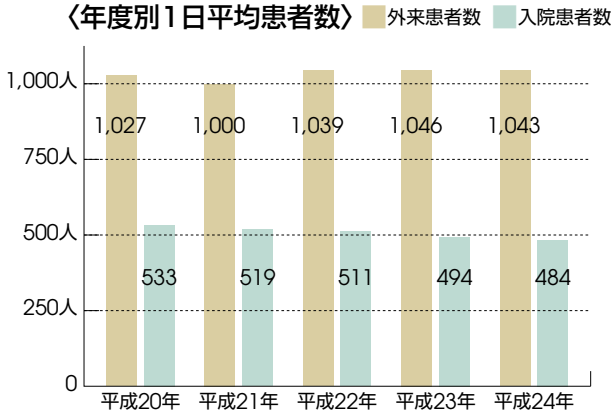
仮設外来棟					
1F	外来受付・会計　医事課　麻酔科　小児外科　放射線診断科 入院案内　医療サービス室　整形外科　小児科　放射線治療科				

〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成24年度

区分	入院		外来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	13,293	36	18,536	76
神経内科	2,883	8	5,011	20
循環器内科	9,204	25	17,139	70
呼吸器内科	5,310	15	6,321	26
血液内科	12,213	33	5,944	24
腎臓内科	1,642	4	2,266	9
リウマチ内科	1,579	4	6,442	26
糖尿病・内分泌内科	3,192	9	16,277	66
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	7,600	21	4,228	17
呼吸器外科	3,386	9	1,364	6
食道外科	5,309	15	1,758	7
乳腺・内分泌内科	1,292	4	4,544	19
心臓血管外科	10,521	29	2,431	10
脳神経外科	9,675	27	8,035	33
小児外科	1,172	3	1,918	8
小児科	11,074	30	8,383	34
産科	4,384	12	5,170	21
婦人科	6,626	18	16,983	69
精神科	10,926	30	19,451	79
整形外科	12,631	35	14,835	61
皮膚科	3,581	10	18,077	74
泌尿器科	12,063	33	15,044	61
眼科	8,376	23	18,113	74
耳鼻咽喉科	11,238	31	15,645	64
放射線診断科	95	0	805	3
放射線治療科	1,868	5	2,400	10
麻酔科	1	0	1,099	4
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	1,521	4	1,966	8
救急科	139	0	2,593	11
歯科口腔外科	3,955	11	13,105	53
計	176,749	484	255,883	1,043

〈年度別1日平均患者数〉



〈中央診療施設等〉

●中央検査部　●中央手術部　●中央放射線部
●中央材料部　●集中治療部　●救急部　●輸血部
●リハビリテーション部　●医療情報部
●血液浄化療法部　●中央病歴部
●周産母子センター　●病理部　●総合診療部
●治験管理センター　●臨床工学センター
●移植検査センター　●卒後臨床研修センター
●医師キャリア形成支援センター
●内視鏡・超音波センター　●遺伝子医療部
●腫瘍情報センター　●相談支援センター
●化学療法部　●緩和ケアセンター
●心療センター　●栄養管理部　●肝疾患相談センター
●医師総合支援センター　●腎疾患先端医療センター

●医療安全管理部　●感染制御部　●薬剤部　●看護部

第二病棟

鉱業博物館

Mineral Industry Museum

〈入館案内〉

●開館時間／9:00～16:00
●休 館 日／年末年始（12月26日～翌年1月5日）
●入 館 料／〈 大 人 〉100円
〈高校生以下〉無料

2階展示室
ギベオン隕石（アフリカ大陸・ナミビア）

〈平成25年度鉱業博物館行事〉

●ジュニアサイエンススクール

〈期間〉8月初旬（2日間）　〈対象〉小学校6年生

●【企画展】鑛のきらめき（新秋田県立美術館・鉱業博物館連携展）

〈期間〉4月3日～5月19日
〈会場〉新秋田県立美術館

サイエンスボランティアによる案内

ミュージアムショップ

平成24年度ジュニアサイエンススクール
「地球の神秘を探しに行こう！」

中央ホール

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School Facilities for Education and Research

附属中学校

平成25年5月1日現在

区分		総定員	学級数	現員 1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属幼稚園	2年保育	100	5	―		〈4歳児〉40		〈5歳児〉45		85
	3年保育	60		〈3歳児〉22		〈4歳児〉20		〈5歳児〉21		63
附属小学校		690	18	92	94	91	95	100	101	573
附属中学校		480	12	146	146	149	―			441
附属特別支援学校	小学部	18	3	5		6		5		16
	中学部	18	3	7	8	8	―			23
	高等部	24	3	8	7	6	―			21

〈教育文化学部〉

●附属学校園

〈教育文化学部〉

●附属教育実践研究支援センター

【施設目的】
学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】
学校教育研究部門、教師発達研究部門、教育臨床研究部門、臨床心理相談室

〈医学部〉

●附属病院

【施設目的】
患者の診療を通じて医学の教育及び研究を行う

●診療科／32科 ●病床数／613床

〈医学部〉

●附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階：TVセミナー室　●2階：緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ　●3階：外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈工学資源学研究科〉

●附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行う
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点 ●模型／約100点

〈工学資源学研究科〉

●附属環境資源学研究センター

【施設目的】
循環型社会における環境資源学の創成と構築、新素材の機能開発並びにその地球環境との関わりを総合的に研究

【研究部門等】
地球環境研究分野、資源環境型地域社会形成研究分野、環境調和型材料プロセス研究分野、生物・工学融合研究分野

〈工学資源学研究科〉

●附属ものづくり創造工学センター

【施設目的】
ものづくり実践・実習教育の推進と創造型エンジニアの育成及びものづくりや科学技術に関するセミナー等を通して、地域社会へ貢献する

【センター活動内容】
学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、大人ものづくり教室、ライセンス講習会、ものづくりレクチャーシリーズ、能代宇宙イベント協議会

〈工学資源学研究科〉

●附属地域防災力研究センター

【施設目的】
自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】
地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野

学内共同教育研究施設

●生体情報研究センター

【設置目的等】
脂質、タンパク質、核酸等の生体情報分子に関わる特色ある研究活動の実施、国内外の関連機関、例えば群馬大学等と有機的な連携、ならびに国民との科学・技術対話の環境整備を行い、本学発の研究成果を継続的に地域と世界に発信する

●総合情報処理センター

【設備等】
●教育用PC(計387台)：PC実習室1～5、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー
●情報サービス：Webメール、学習支援システム、大判プリンタ、大規模演算サーバ(Express5800/A1080a-D)、仮想サーバホスティング(Express/B120b-d)
●情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1～4Gbps)、無線LAN(計25箇所)、学外接続ネットワーク(1Gbps)

●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー

【設備等】
●新リサイクル技術・評価システム：形状測定マイクロスコープ、EXAFS装置、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ガスクロマトグラフィー、ディスク型手動粉砕器、ロール型磁選機、レーザーデータ電位計、エリーズ非鉄金属選別器、真空アーク溶解炉など
●高度機能素材設計・評価システム：多層構造膜作製装置、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システムなど

●バイオサイエンス教育・研究センター

【設備等】
●動物実験部門：【小動物部門】SPF飼育室(16室)、クリーン飼育室(9室)、実験室(4室)【中・大動物部門】SPF飼育室(1室)、クリーン飼育室(5室)、実験室(4室)、X線室など　【特殊実験部門】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室、ブタ内視鏡訓練室など
●放射性同位元素部門：【管理用設備】放射線管理総合システム・サーベイメーター各種【実験用設備】遠心機各種、GeneAmp PCR System 2台など　【測定用設備】液体シンチレーションカウンター2台など　【遺伝子組換実験設備】旋回培養器、高速冷却遠心機など
●分子医学部門：透過型電子顕微鏡、分光光度計類、プロテインシーケンサー、遺伝子導入装置、DNAシークェンサー、DNA増幅装置、フローサイトメータ、共焦点レーザー顕微鏡など
●教育研究連携部門　●福祉医療工学部門

●放射性同位元素センター

【設備等】
●非密封線源実験エリア：−10℃及び4℃低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケーラー、サーベイメーター、プレートアナライザー
●密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメーター、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザー、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能

●環境安全センター

【設備等】
●廃液処理棟：無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物－噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、COD廃液－フェントン処理
●実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器

●ベンチャーインキュベーションセンター

【設備等】（センター内設置の秋田産学官共同研究拠点センター導入機器）
超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーネス高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置（600MHz）、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ポロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、バイポーラ電源、活性汚泥処理装置、スプレードライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置（ガス導入口7ライン）、リアルタイムPCRシステム、マルチラベルカウンター、回転式粘度計（Lアダプタ付）、四重極-飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザ走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザ脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、バイオクリーンベンチ

●産学連携推進機構

【設置目的等】
民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

●国際資源学教育研究センター

【設置目的等】
国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。

●地域創生センター

【設置目的等】
地域再生のための知の創生の見地から、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言を行うとともに、地域から学ぶことで地域を担う人材育成の一助となることを目指し、地域の発展に寄与する。

センター　Center for Education and Research

	設置目的等
評価センター	● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発
教育推進総合センター	● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実
学生支援総合センター	● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供等の就職活動支援
教員免許状更新講習推進センター	● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 県内の教育委員会、大学等諸機関との連携
国際交流センター	● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進

技術組織　Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施　設	主な設備内容
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、器材室
大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉	●1階／管理事務室、食堂、厨房、喫茶室、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、アルバイトセンター ●2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー
本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉	●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／研修室、談話室、大会議室、小会議室、和室、物品庫
学　生　寮	
国際交流会館	●居　　室／単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室
留学生会館	●居室／単身室(27室)、夫婦室(3室) ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室
乳頭ロッジ	●食堂・研修室　●浴室(男・女) ●宿泊室／和室3・洋室2(30人収容)

区　分	手形寮〈女子〉(留学生除く)	本道寮〈女子〉(留学生除く)	西谷地寮〈男子〉(留学生含む)
建物延面積	745㎡	1,121㎡	3,170㎡
室　数	40室	31室	130室
収容定員	40人	31人	130人

手形キャンパス内の大学会館(クレール)

西谷地寮

国際交流会館

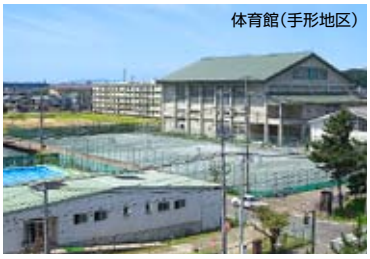
留学生会館

体育施設

Sports Facilities

施　設	面　積(㎡) 手形地区	本道地区	保戸野地区	備　考
陸上競技場	24,637	20,909	―	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		―	―
球技場	陸上競技場と併用、人工芝	陸上競技場と併用	―	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場		―	―	―
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、バレーボール、バドミントン、柔道、剣道(本道地区はバレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球、フットサル)
小体育館	650	―	―	体操、卓球、空手道
柔剣道場(武道場)	―	―	373	柔道、剣道
弓道場	149	―	―	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	―	―
プール(25m)	800	―	―	―
運動場	―	―	14,923	―

陸上競技場(手形地区)


体育館(手形地区)

東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供
- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援
- 共同研究、科学技術相談の窓口
- 学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学術会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援
- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援
- 企業からの求人の申込
- 在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援
- 同窓会への大学情報などの提供

●**所在地**　〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
●**TEL** 03-5440-9104(FAX兼用)
●**ホームページ**
http://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/

キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市と北秋田市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 市、大学、銀行の三者が一体となって地域活性化に取り組んでいます。

●**連絡先**　〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²ぷらざ内
●**TEL** 0182-38-8304　●**FAX** 0182-32-4056

北秋田分校〈平成22年11月17日開設〉

- 珪藻土等地域資源の利活用の研究や、教員の養成研修、出前授業などの教員派遣事業を実施しています。
- 小、中、高の児童生徒への教育支援に取り組んでいます。

●**連絡先**　〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班
●**TEL** 0186-62-1111　●**FAX** 0186-63-2586

インフォメーションセンター　Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展・コンサート等も開催しています。

〈入館案内〉

●開館時間／10:30〜17:00
●開 館 日／平日のみ（入館無料）

インフォメーションセンター外観

オープンスペースの様子

〈主な常設展示〉

●卒業生紹介

成田（なりた） 為三（ためぞう）

秋田県師範学校（教育文化学部の前身）出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。

南木（なぎ） 佳士（けいし）

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。

●秋田大学3D化プロジェクト

附属ものづくり創造工学センターの「学生自主プロジェクト」で学生が作成したプログラム。コントローラを操作することによって、仮想空間のキャンパスを自由に散策することができます。

〈主な企画展・コンサート〉

「幼稚園教育のあゆみ展」

「秋大憩いのコンサート」

就職支援活動
Career Development

1. 学生支援総合センター 就職推進部門の取り組み

学生の皆さんにとって充実した学生生活を保証することを目的とした学生支援総合センターには、就職推進部門が設けられ、就職推進課が学生の就職活動を支援しています。就職推進課では、学生が自信をもって自らの進路を決定し、その希望を実現できるように各学部就職担当と連携しながら、以下のような支援事業を企画実施しています。

- ●履歴書・エントリーシートや面接の指導
- ●学生への求人情報提供や各種就職に関わる相談・支援
- ●企業や公務員への就職を希望する学生のための就職ガイダンスの開催
- ●企業を対象とした求人開拓と情報収集
- ●学内企業個別説明会の開催
- ●ジョブ・フェアー（大学主催の企業合同説明会）の開催
- ●初年次からのキャリア形成を目的とする科目開講やインターンシップの推進

学生支援棟

就職ガイダンス

2. 各学部の就職支援体制

教育文化学部

就職情報室を設置し、就職に関するデータを収集整理するとともに専門員が随時就職相談に応じています。

エントリーシートや志望動機の書き方指導、小論文や面接の練習については、就職委員が個別にじっくりと対応しています。

医　学　部

医学科

医師免許取得後２年間は、プライマリ・ケアの基本的な診療能力の習得を目指して、各科のスーパーローテーション研修(臨床研修制度)が義務付けられます。研修先はマッチング登録により自由に選択できますが、本学科では附属病院内に卒後臨床研修センターを設置して初期研修並びに専門医研修のきめ細かいサポートを行っています。また、研修に関する説明会も年数回行っており、卒業生や各科専門医からのアドバイスを受け取る機会を設けています。

保健学科

看護学専攻では、4年次のチュートリアル担当教員が学生個々の進路の相談・支援にあたっています。また、就職・進学支援担当教員を3名配置し、就職施設の選択や病院見学会、採用試験情報の提供など、学生の進路決定を支援する体制をとっています。

また、理学療法学専攻、作業療法学専攻では、4年次の担任を中心として就職・進学に関する相談を受ける体制を整えています。

工学資源学部

各学科に就職担当教員を置き、学生の就職指導に当たるとともに、就職資料室を設置して就職に関する情報を提供しています。

平成25年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events（Academic Year of 2013）

第47回今日歩大会（きょうほ） 5月25日（土）・26日（日）

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走（踏）破するもので、例年学生・教職員および一般市民500人ほどが参加して行われる本学の名物行事です。

第64回 東北地区大学体育大会

6月～11月

東北地区の国・公・私立の47大学による体育大会で、男女合わせて28種目の競技が行われます。平成20年度からは東北各県で分担して大会を運営することになりました。

サークルリーダー研修会 9月下旬

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED（自動体外式除細動器）の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。

大　学　祭 10月19日（土）・20日（日）

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。

全学駅伝競走大会 11月2日（土）

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。

資料編

○沿革
○歴代学長
○運営組織
○教育研究組織
○事務組織
○役職員
○学生の定員・現員
○入学志願者・入学状況
○出身高校所在地別在学状況
○卒業者・修了者数
○学位授与数
○卒業者等就職状況
○平成24年度学生表彰等受賞者
○外国人留学生数
○外国人研究員等
○国際交流協定校
○公開講座（平成24年度）
○国内機関との連携・協力協定
○役員数
○教職員数
○平成25年度予算
○外部資金受入状況
○平成25年度科学研究費助成事業採択状況
○土地・建物
○刊行物一覧
○各連絡先・所在地一覧
○手形地区施設配置図
○本道地区施設配置図
○保戸野地区施設配置図
○アクセス

沿革

Historical Sketch

明治6年(1873)9月
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月
秋田太平学校

明治11年(1878)4月
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月
秋田師範学校

明治13年(1880)5月
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月
秋田師範学校(官立)

明治43年(1910)3月
秋田鉱山専門学校(官立)

昭和19年(1944)4月
秋田青年師範学校(官立)

昭和10年(1935)4月
秋田県立青年学校
教員養成所

大正13年(1924)3月
秋田県立実業補習学校
教員養成所

●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現

昭和　　平成

20年代　40年代　50年代　60年代　元年　2年　3年　4

昭和24年(1949)5月
秋田大学設置

大学院
昭和40年(1965)4月
鉱山学研究科(修士課程)

昭和51年(1976)4月
医学研究科

平成元年(1989)4月
教育学研究科(修士課程)

学芸学部
昭和24年(1949)5月
小学校教員養成課程
中学校教員養成課程

改称・教育学部
昭和42年(1967)6月

昭和43年(1968)4月
養護学校教員養成課程

昭和48年(1973)4月
幼稚園教員養成課程

平成3年(1991)4
情報科学課程

昭和26年(1951)4月
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校

昭和47年(1972)4月
附属養護学校

昭和52年(1977)4月
附属教育工学センター

平成
改組

医学部
昭和45年(1970)4月
医学科

昭和46年(1971)4月
附属病院

昭和47年(1972)4月
附属看護学校

平成4

昭和56年(1981)4月
附属動物実験施設

昭和57年(1982)4月
附属実験実習機器センター

鉱山学部
昭和24年(1949)5月

鉱山学科
昭和35年(1960)4月
採鉱学科
鉱山地質学科

冶金燃料学科
昭和30年(1955)4月
冶金学科
燃料学科

昭和42年(1967)4月
金属材料学科

昭和56年(1981)4月
資源化学工学科

平成2年(1990)4月
改組
資源・素材工学科
物質工学科
情報工学科

鉱山電気学科
昭和34年(1959)4月
鉱山機械学科
鉱山電気学科

昭和39年(1964)4月
機械工学科
電気工学科

昭和48年(1973)4月
電子工学科

昭和41年(1966)4月
鉱山土木学科

昭和45年(1970)4月
土木工学科

昭和52年(1977)4月
生産機械工学科

平成3年(1991)4
改組
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科

昭和40年(1965)4月
附属鉱業博物館

昭和25年(1950)4月
附属地下資源開発研究所

昭和42年(1967)4月
改称・附属地下資源研究施設

昭和61年(1986)4月
改組・附属資源地学研究施設

改組・附属素材資

昭和24年(1949)
通信教育講座

医療技術短期大学部
〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉

●理学療法学科・作業療法学科〈平成2年(1990)4月分離増設〉
【看護学科〈平成元年(1989)10月〉】

専攻科
●鉱山学専攻科〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉
●教育専攻科〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉
●特殊教育特別専攻科〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉

学内共同教育研究
●産学連携推進機構〈平成19年(200
【知的財産本部〈平成16年(2004)4
●総合情報処理センター〈平成15年(
●ベンチャー・ビジネス・ラボラトリ
【サテライト・ベンチャー・ビジネス
●バイオサイエンス教育・研究センタ
●環境安全センター〈平成16年(200
●ベンチャーインキュベーションセ
●地域創生センター〈平成23年(201

4年 6年 8年 10年 11年 12年 14年 16年 18年 19年 20年 21年 22年 23年 24年

平成11年(1999)
50周年
平成16年(2004)4月
国立大学法人
平成21年(2009)
60周年

教育学研究科
平成19年(2007)4月
医学系研究科
医学系研究科
平成6年(1994)4月
鉱山学研究科(博士課程)
平成14年(2002)4月
改組・工学資源学研究科
工学資源学研究科

平成10年(1998)4月
改組・教育文化学部
学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属養護学校
平成19年(2007)4月
改称・附属特別支援学校
4年(1992)4月
・附属教育実践研究指導センター
附属教育実践
研究指導センター
平成12年(2000)4月
改組・附属教育実践総合センター

教育文化学部
学校教育課程
地域科学課程
国際言語文化課程
人間環境課程
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校
平成22年(2010)4月
改称・附属教育実践研究支援センター

医学部
医学科
保健学科
附属病院

平成14年(2002)10月
設置・保健学科
4年(1992)3月廃止
平成16年(2004)3月廃止
平成16年(2004)3月廃止

平成10年(1998)4月
改組・工学資源学部
地球資源学科
環境物質工学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科
平成20年(2008)4月
環境応用化学科
生命化学科
4月
附属鉱業博物館
平成8年(1996)5月
源システム研究施設
附属素材資源システム研究施設
平成18年(2006)4月
改組・附属環境資源学研究センター
平成16年(2004)7月
附属ものづくり創造工学センター
平成18年(2004)1月
附属地域防災力研究センター
通信教育講座

工学資源学部
地球資源学科
環境応用化学科
生命化学科
材料工学科
情報工学科
機械工学科
電気電子工学科
土木環境工学科
附属鉱業博物館
附属環境資源学研究センター
附属ものづくり創造工学センター
附属地域防災力研究センター
通信教育講座

施設

7)11月〉
4月〉+地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月〉】
(2003)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月〉】
ー〈平成15年(2003)4月〉
ス・ラボラトリー〈平成13年(2001)5月〉】
ター〈平成16年(2004)4月〉 ●放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉
4)4月〉 ●国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉
ンター〈平成22年(2010)4月〉
1)4月〉 ●生体情報研究センター〈平成24年(2012)4月〉

センター

●評価センター〈平成16年(2004)4月〉
●教育推進総合センター〈平成16年(2004)4月〉
●教員免許状更新講習推進センター〈平成21(2009)4月〉
●学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉
●国際交流センター〈平成20年(2008)2月〉
【国際交流推進機構〈平成16年(2004)4月〉】
※社会貢献推進機構
〈平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月〉

●附属図書館
〈昭和24年(1949)5月〉
●保健管理センター
〈昭和49年(1974)4月〉

歴代学長

佐野 秀之助
（昭25.5.6～昭30.12.24）

渡邊 萬次郎
（昭31.3.1～昭41.2.28）

伊藤 泰一
（昭41.3.1～昭44.6.9）

渡邊 武男
（昭46.2.23～昭51.2.22）

九嶋 勝司
（昭51.2.23～昭56.2.22）

梅津 良之
（昭56.2.23～昭61.2.22）

渡部 美種
（昭61.2.23～平3.2.22）

新野 直吉
（平3.2.23～平8.2.22）

徳田 弘
（平8.2.23～平13.2.22）

三浦 亮
（平13.2.23～平20.3.31）

吉村 昇
（平20.4.1～）

〈事務取扱〉

剱木 亨弘
（昭24.5.31～昭24.7.30）

池田 謙三
（昭24.7.31～昭25.5.5）

五十嵐 勇
（昭30.12.25～昭31.2.29）

藤島 主殿
（昭44.6.10～昭46.2.22）

運営組織

Management Organization

監　事
（2人）
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

経営協議会
（12人）
Management Committee

経営に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 理事（経営企画・地域創生・図書館担当）〈非常勤〉
- 医学部附属病院長
- 副学長（評価担当）
- 学外委員（6人）

役　員　会
（6人）
Board of Directors

経営、教学の両面にわたり、特定の重要事項について、学長の意思決定に先立ち議決

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（研究・産学連携・情報担当）
- 理事（教育・学生・入試担当）
- 理事（財務・施設・環境担当）
- 理事（経営企画・地域創生・図書館担当）〈非常勤〉

教育研究評議会
（19人）
Education and Research Council

教育研究に関する重要事項を審議

- 学長
- 理事（総務担当）
- 理事（研究・産学連携・情報担当）
- 理事（教育・学生・入試担当）
- 副学長（評価担当）
- 教育文化学部長
- 医学系研究科長
- 工学資源学研究科長
- 附属図書館長
- 医学部附属病院長
- 産学連携推進機構長
- 総合情報処理センター長
- 教育推進主管
- 各学部長等が推薦する当該学部等の教授（各2人）

学長選考会議
（12人）
President Nomination Committee

- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者（5人）
- 教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／附属図書館長／副学長（評価担当）
- 理事（総務担当）／理事（財務・施設・環境担当）

部局長会議
（14人）

- 学　長
- 理事（総務担当）／理事（研究・産学連携・情報担当）／理事（教育・学生・入試担当）／理事（財務・施設・環境担当）
- 副学長（評価担当）／副学長（国際戦略担当）／副学長（病院経営担当）
副学長（人事適正化・総合技術部・男女共同参画・附属学校園担当）／副学長（生涯高等教育担当）
- 教育文化学部長／医学系研究科長／工学資源学研究科長／附属図書館長

教育研究組織

Academic Organization

秋田大学 Akita University

- 学部 Faculties
  - 教育文化学部 Faculty of Education and Human Studies
    - 学校教育課程 Program in School Education
    - 地域科学課程 Program in Regional Studies
    - 国際言語文化課程 Program in International Language and Culture Studies
    - 人間環境課程 Program in Environmental and Mathematical Sciences
    - 附属幼稚園 Kindergarten
    - 附属小学校 Elementary School
    - 附属中学校 Junior High School
    - 附属特別支援学校 Special School for Mentally Retarded Children
    - 附属教育実践研究支援センター Center for Educational Research and Practice
  - 医学部 Faculty of Medicine
    - 医学科 School of Medicine
    - 保健学科 School of Health Sciences
    - 附属病院 University Hospital
  - 工学資源学部 Faculty of Engineering and Resource Science
    - 地球資源学科 Department of Earth Science and Technology
    - 環境応用化学科 Department of Engineering in Applied Chemistry
    - 生命化学科 Department of Life Science
    - 材料工学科 Department of Materials Science and Engineering
    - 情報工学科 Department of Computer Science and Engineering
    - 機械工学科 Department of Mechanical Engineering
    - 電気電子工学科 Department of Electrical and Electronic Engineering
    - 土木環境工学科 Department of Civil and Environmental Engineering
    - 通信教育講座 Correspondence Education Program
- 大学院 Graduate Schools
  - 教育学研究科 Graduate School of Education
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 学校教育専攻 School Education
      - 教科教育専攻 Major Subjects Education
  - 医学系研究科 Graduate School of Medicine
    - 修士課程 Master's Degree Program
      - 医科学専攻 Medical Sciences
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 保健学専攻 Health Sciences
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 保健学専攻 Health Sciences
    - 博士課程 Doctor's Degree Program
      - 医学専攻 Medicine
  - 工学資源学研究科 Graduate School of Engineering and Resource Science
    - 博士前期課程 Master's Degree Program
      - 地球資源学専攻 Department of Earth Science and Technology
      - 環境応用化学専攻 Department of Applied Chemistry
      - 生命科学専攻 Department of Life Science
      - 材料工学専攻 Department of Materials Science and Engineering
      - 情報工学専攻 Department of Computer Science and Engineering
      - 機械工学専攻 Department of Mechanical Engineering
      - 電気電子工学専攻 Department of Electrical and Electronic Engineering
      - 土木環境工学専攻 Department of Civil and Environmental Engineering
      - 共同ライフサイクルデザイン工学専攻 Cooperative Major in Life Cycle Design Engineering
    - 博士後期課程 Doctor's Degree Program
      - 資源学専攻 Department of Geosciences,Geotechnology, and Materials Engineering for Resources
      - 機能物質工学専攻 Department of Advanced Materials Engineering
      - 生産・建設工学専攻 Department of Production and Civil Engineering
      - 電気電子情報システム工学専攻 Department of Electrical,Electronic and Computer Systems Engineering
    - 附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum
    - 附属環境資源学研究センター Center for Geo-environmental Science
    - 附属ものづくり創造工学センター Innovation Center for Engineering Design and Manufacturing
    - 附属地域防災力研究センター Research Center for Potential Development of Disaster Prevention
- 学内共同教育研究施設 University Common Use Facilities for Education and Research
  - 産学連携推進機構 Cooperative Research Center
  - 総合情報処理センター General Information Processing Center
  - ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー Venture Business Laboratory (VBL)
  - バイオサイエンス教育・研究センター Bioscience Education and Research Center (BERC)
  - 放射性同位元素センター Radioisotope Research Center
  - 環境安全センター Environmental Research Center
  - 国際資源学教育研究センター International Center for Research and Education on Mineral and Energy Resources
  - ベンチャーインキュベーションセンター Venture Incubation Center (AU-VIC)
  - 地域創生センター Center for Regional Development
  - 生体情報研究センター Research Center for Biosignal
- センター Center for Education and Research
  - 評価センター Center for Evaluation
  - 教育推進総合センター Center for Promotion of Educational Reseach and Affairs
  - 学生支援総合センター Student Support Center
  - 教員免許状更新講習推進センター Center for Teaching License Extension
  - 国際交流センター International Exchange Center
- 附属図書館 University Library
  - 医学部分館 Medical School Library
- 保健管理センター University Health Center

事務組織

Administrative Organization

役職員

Administrative Staff

役　員

学長	吉村　昇
理事(総務担当)	熊田　亮介
理事(研究・産学連携・情報担当)	玉本　英夫
理事(教育・学生・入試担当)	本橋　豊
理事(財務・施設・環境担当)	渡部　良和
理事(経営企画・地域創生・図書館担当)(非常勤)	吉岡　尚文
監事	渡部　文靖
監事(非常勤)	小林　俊雄

副学長

副学長(総務担当)	熊田　亮介
副学長(研究・産学連携・情報担当)	玉本　英夫
副学長(教育・学生・入試担当)	本橋　豊
副学長(評価担当)	中村　雅英
副学長(国際戦略担当)	山本　文雄
副学長(病院経営担当)	伊藤　宏
副学長(人事適正化・総合技術部・男女共同参画・附属学校園担当)	池村　好道
副学長(生涯高等教育担当)	石尾　俊二

学長補佐

ハラスメント担当	佐藤　博
企画分析担当	中村　雅英
知的財産担当	杉山　俊博
研究支援担当	石尾　俊二
学生支援担当	河谷　正仁
大学間連携担当	銭谷　秋生
地域協働担当	鈴木　雅史
地域再生担当	阿部　昇
評価担当	上田　晴彦
国際交流担当	今井　亮
病院機能拡充担当	羽渕　友則
男女共同参画担当	渡部　育子
新学部設置担当	宮本　律子
新学部設置担当	佐藤　時幸

経営協議会

学長	吉村　昇
理事(総務担当)・副学長	熊田　亮介
理事(財務・施設・環境担当)	渡部　良和
理事(経営企画・地域創生・図書館担当)(非常勤)	吉岡　尚文
附属病院長	伊藤　宏
副学長(評価担当)	中村　雅英
秋田魁新報社代表取締役社長	小笠原　直樹
秋田県医師会会長	小山田　雍
東京国立博物館館長	銭谷　眞美
秋田銀行代表取締役頭取	藤原　清悦
東北大学名誉教授	吉本　高志
秋田県教育委員会教育長	米田　進

教育研究評議会

学長	吉村　昇
理事(総務担当)・副学長	熊田　亮介
理事(研究・産学連携・情報担当)・副学長	玉本　英夫
理事(教育・学生・入試担当)・副学長	本橋　豊
副学長(評価担当)	中村　雅英
教育文化学部長	四反田　素幸
医学系研究科長	澤田　賢一
工学資源学研究科長	小川　信明
附属図書館長	清水　徹男
附属病院長	伊藤　宏
産学連携推進機構長	齊藤　準
総合情報処理センター長	今野　和彦
教育推進主管	川東　雅樹
教育文化学部教授	佐藤　修司
教育文化学部教授	志立　正知
医学系研究科教授	尾野　恭一
医学系研究科教授	大友　和夫
工学資源学研究科教授	加賀谷　誠
工学資源学研究科教授	神谷　修

本部等

副理事(総務担当)	渡部　博靖
副理事(教育・学生・入試担当)	熊谷　覚
副理事(財務・施設・環境担当)	篠山　公郎
監査室長	佐藤　博巳
総務課長	福島　哉史
人事課長・(兼)能力開発室長	大山　弘
企画広報課長	大川　卓男
学術研究課長	大山　弘正
図書館・情報推進課長	大沼　忠弘
教育推進課長	山内　敏博
学生支援課長	工藤　工
就職推進課長	藤井　和明
入試課長	阿部　好子
評価課長	戸島　隆造
地域創生課長	今野　悟
国際課長・(兼)危機管理調整役	髙橋　康弘
財務課長	木村　誠
経理・調達課長	藤澤　均
施設企画課長	須藤　光春
施設保全課長	佐々木　務

センター・機構等

産学連携推進機構長	齊藤　準
総合情報処理センター長	今野　和彦
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	柴山　敦
バイオサイエンス教育・研究センター長	尾野　恭一
放射性同位元素センター長	田口　正美
環境安全センター長	村田　勝敬
国際資源学教育研究センター長	安達　毅
ベンチャーインキュベーションセンター長	玉本　英夫
地域創生センター長	石尾　俊二
生体情報研究センター長	佐々木　雄彦
評価センター長	中村　雅英
教育推進総合センター長	本橋　豊
学生支援総合センター長	本橋　豊
教員免許状更新講習推進センター長	井門　正美
国際交流センター長	山本　文雄
保健管理センター所長	苗村　育郎
教育推進主管	川東　雅樹

附属図書館

館長	清水　徹男
医学部分館長	田中　正光
館長補佐	麻生　節夫

教育文化学部

学部長	四反田　素幸
事務長	佐藤　幸男
附属教育実践研究支援センター長	武田　篤
附属幼稚園長	遠藤　敏明
附属小学校長	浦野　弘
附属中学校長	佐々木　和貴
附属特別支援学校長	森　和彦

医学系研究科

研究科長	澤田　賢一
附属病院長	伊藤　宏
事務部長	小玉　功
総務課長	中野　公雄
企画管理課長	阿部　幸治
調達課長	石川　洋一
学務課長	小松　一幸
医事課長	針金　誠悦

工学資源学研究科

研究科長	小川　信明
事務長	岡見　善孝
附属鉱業博物館長	西谷　忠師
附属環境資源学研究センター長	石山　大三
附属ものづくり創造工学センター長	神谷　修
附属地域防災力研究センター長	松冨　英夫

学生の定員・現員

〈学　部〉

平成25年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	現員 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
教育文化学部	学校教育課程	100	400	104	107	118	114			443
	地域科学課程	65	260	66	66	71	73			276
	国際言語文化課程	65	260	69	71	76	79			295
	人間環境課程	60	240	62	64	70	69			265
	小　計	290	1,160	301	308	335	335			1,279
医学部	医学科	120〈5〉	717	122	129	126	127	101	119	724
	保健学科	106(14)	452	110	109	111	117			447
	小　計	226〈5〉(14)	1,169	232	238	237	244	101	119	1,171
工学資源学部	地球資源学科	60	240	66	67	60	58			251
	環境物質工学科	※1				1	1			2
	環境応用化学科	55	220	57	63	66	60			246
	生命化学科	32	128	32	35	34	29			130
	材料工学科	60	240	65	63	78	70			276
	情報工学科	50	200	61	62	70	51			244
	機械工学科	77	308	90	101	86	91			368
	電気電子工学科	75	300	80	91	85	95			351
	土木環境工学科	51	204	61	56	63	62			242
	各学科共通	(12)	24							
	小　計	460(12)	1,864	512	538	543	517			2,110
合　計		976〈5〉(26)	4,193	1,045	1,084	1,115	1,096	101	119	4,560

【注】
※1：平成20年度から学生募集停止

※〈　〉内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。　※(　)内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成25年5月1日現在

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
教育学研究科	学校教育専攻	13	26	11	19	30
	教科教育専攻	31	62	16	22	38
計		44	88	27	41	68

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 修士課程 1年次	2年次	計
医学系研究科	医科学専攻	5	10		1	1

専　攻	入学定員	収容定員	博士前期課程 1年次	2年次	計
保健学専攻	12	24	12	19	31

専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
保健学専攻	3	9	3	7	3	13

専　攻	入学定員	収容定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	計
医学専攻	30	120	32	27	33	60	152

医学研究科 専　攻	入学定員	収容定員	博士課程 1年次	2年次	3年次	4年次	計
社会医学系専攻	※1						
内科系専攻						2	2
外科系専攻						1	1
計	50	163					200

【注】
※1：平成19年度から学生募集停止

研究科	専　攻	入学定員	収容定員	現員 博士前期課程 1年次	2年次	計
工学資源学研究科	地球資源学専攻	17	34	16	23	39
	環境物質工学専攻	※1			2	2
	環境応用化学専攻	20	40	11	18	29
	生命科学専攻	12	24	12	10	22
	材料工学専攻	23	46	24	16	40
	情報工学専攻	16	32	10	11	21
	機械工学専攻	26	52	18	24	42
	電気電子工学専攻	30	60	25	37	62
	土木環境工学専攻	11	22	5	8	13
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	24	6	12	18
	小　計	167	334	127	161	288

専　攻	入学定員	収容定員	博士後期課程 1年次	2年次	3年次	計
資源学専攻	4	12	2	4	7	13
機能物質工学専攻	4	12	2	3	4	9
生産・建設工学専攻	4	12	1	4	6	11
電気電子情報システム工学専攻	4	12	1	3	4	8
小　計	16	48	6	14	21	41
計	183	382				329
合　計	277	633				597

【注】
※1：平成24年度から学生募集停止

入学志願者・入学状況

〈学　部〉

平成25年度

区　分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
教育文化学部	290	745	930	1,675	128	169	297	5.78
医学部	226	558	686	1,244	87	140	227	5.50
工学資源学部	460	1,707	323	2,030	404	66	470	4.41

※外国人留学生及び編入生は除く。

〈大学院〉

平成25年度

区　分			入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
				男	女	計	男	女	計	
教育学研究科(修士課程)			44	29	20	49	12	15	27	1.11
医学系研究科	(修士課程)	医科学専攻	5	0	0	0	0	0	0	0.00
	(博士前期課程)	保健学専攻	12	3	11	14	3	9	12	1.17
	(博士後期課程)	保健学専攻	3	2	1	3	2	1	3	1.00
	(博士課程)	医学専攻	30	26	5	31	26	5	31	1.03
工学資源学研究科	(博士前期課程)		167	156	24	180	100	19	119	1.08
	(博士後期課程)		16	5	1	6	5	1	6	0.38

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く。

出身高校所在地別在学状況

〈学生総数(学部学生)〉

平成25年5月1日現在

		人数	%
北海道		108	2.5
東北 2,968 (67.8%)	青森	246	5.6
	岩手	440	10.1
	秋田	1,808	41.3
	宮城	206	4.7
	山形	162	3.7
	福島	106	2.4
関東		649	14.8
中部		543	12.4
近畿		63	1.5
中国		12	0.3
四国		15	0.3
九州		19	0.4
学生総数		4,377	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈医学部〉

平成25年5月1日現在

		人数	%
北海道		48	4.2
東北 675 (59.2%)	青森	41	3.6
	岩手	79	6.9
	秋田	445	39.0
	宮城	62	5.4
	山形	32	2.8
	福島	16	1.4
関東		272	23.9
中部		116	10.2
近畿		18	1.6
中国		2	0.2
四国		3	0.3
九州		6	0.5
計		1,140	

〈教育文化学部〉

平成25年5月1日現在

		人数	%
北海道		14	1.1
東北 1,056 (84.9%)	青森	39	3.1
	岩手	83	6.7
	秋田	767	61.7
	宮城	53	4.3
	山形	76	6.1
	福島	38	3.1
関東		93	7.5
中部		66	5.3
近畿		9	0.7
中国		4	0.3
四国		0	0.0
九州		1	0.1
計		1,243	

〈工学資源学部〉

平成25年5月1日現在

		人数	%
北海道		46	2.3
東北 1,241 (62.0%)	青森	166	8.3
	岩手	278	13.9
	秋田	596	29.9
	宮城	91	4.6
	山形	54	2.7
	福島	52	2.6
関東		284	14.3
中部		361	18.1
近畿		36	1.8
中国		6	0.3
四国		12	0.6
九州		12	0.6
計		1,994	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学部 区分	24年度	累計	大学院 区分	24年度	累計	専攻科 区分	累計
教育文化学部	283	3,545	教育学研究科	29	767	教育専攻科	78
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻科	212
医学部	207	4,408	医学系研究科（修士課程）	4	57		
			医学系研究科（博士前期課程）	10	31		
			医学系研究科（博士後期課程）	4	7		
			医学系研究科（博士課程）	21	53		
			医学研究科	6	788		
工学資源学部	465	5,509	工学資源学研究科（博士前期課程）	163	1,422	鉱山学専攻科	58
			工学資源学研究科（博士後期課程）	10	88		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科（修士課程）		1,270		
			鉱山学研究科（博士前期課程）		1,012		
			鉱山学研究科（博士後期課程）		123		
計	955	42,503	計	247	5,618	計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止　※教育専攻科…平成元年3月廃止　※鉱山学研究科（修士課程）…平成9年3月廃止
※教育学部…平成10年4月教育文化学部に改組・改称　※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部に改組・改称
※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科に改組・改称　※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
※医学研究科…平成19年4月医学系研究科に改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

学位授与数

平成25年5月1日現在

区分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	累計
教育学研究科	修士（教育学）	31	30	30	24	29	767
医学系研究科	修士（医科学）	5	3	4	4	4	20
	修士（看護学）	8	7	10	5	5	35
	修士（リハビリテーション科学）	8	7	6	7	5	33
	博士（保健学）（課程）				3	4	7
	博士（医学）（課程）		1	12	19	23	55
	博士（医学）（論文）	3	5	1	2	1	16
	小計	24	23	33	40	42	166
医学研究科	博士（医学）（課程）	33	20	8	6	4	803
	博士（医学）（論文）	0	0	0	0	0	574
	小計	33	20	8	6	4	1,377
工学資源学研究科	修士（工学）	154	120	142	168	159	1,404
	修士（資源学）	1	1	3	0	4	18
	博士（工学）（課程）	15	8	12	11	10	86
	博士（資源学）（課程）	0	0	0	1	0	2
	博士（工学）（論文）	0	2	1	0	0	8
	博士（資源学）（論文）	0	0	0	0	0	1
	小計	170	131	158	180	173	1,519
鉱山学研究科	修士（工学）						2,252
	修士（資源学）						30
	博士（工学）（課程）						117
	博士（資源学）（課程）						6
	博士（工学）（論文）						31
	小計						2,436
合計		258	204	229	250	248	6,265

卒業者等就職状況

平成24年度（平成25年5月1日現在）

区分		卒業者数	進学者数	就職者数			産業別就職者数																												未就職者
																		学校教育																	
																		教員																	
				県内	県外		鉱業	建設業	製造業	電気・ガス等	情報通信業	運輸・郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	宿泊・飲食業	医療・福祉	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高専・大学等	特別支援学校	教員の計	教員以外	教育学習支援業	複合サービス業	サービス業	公務員 国家	公務員 地方	公務員 公務員の計	その他（公務員等再受験）	
学部	教育文化学部	283	18	236		102	—	4	4	—	10	7	21	20	—	4	13	1	26	31	12	—	10	80	7	6	3	19	3	35	38	22	7
学部	医学部	207	4	198		98	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	198	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	1
学部	工学資源学部	465	132	275		43	6	29	98	4	33	17	5	3	1	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2	10	22	3	40	43	44	14
学部	小計	955	154	709		243	6	33	102	4	43	24	26	23	1	4	213	1	26	31	12	—	10	80	7	8	13	41	6	75	81	70	22
大学院	教育学研究科	29	1	27		17	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	4	—	5	6	4	—	1	16	—	1	—	3	1	1	2	1	—
大学院	医学系研究科	39	—	36		32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	32	—	—	—	1	3	—	4	—	—	—	—	—	—	—	3	—
大学院	医学研究科	6	—	6		6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大学院	工学資源学研究科	173	5	160		17	8	20	80	4	20	7	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3	—	4	1	—	2	9	—	5	5	7	1
大学院	小計	247	6	229		72	8	20	80	4	21	7	—	—	—	—	41	—	5	6	6	7	1	25	1	1	2	12	1	6	7	11	1
合計		1202	160	938		315	14	53	182	8	64	31	26	23	1	4	254	1	31	37	18	7	11	105	8	9	15	53	7	81	88	81	23

平成24年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧〈学術研究活動〉

賞	氏名	所属	業績内容
優秀賞（個人）	中川　惟	医学部　医学科 4年	自律神経機能について調査研究し、国際自律神経科学学会の公式学術誌"Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical"誌に掲載されるなど、高く評価された。
	荒井　香織	医学部　医学科 3年	
奨励賞（個人）	斉藤　知直	工学資源学研究科 博士前期課程 2年 地球資源学専攻	平成24年度石油技術協会春季講演において、石油技術協会優秀発表賞を受賞した。

学生表彰被表彰者一覧〈課外活動〉

賞	氏名	所属	業績内容
優秀賞（個人）	本郷　晋也	工学資源学部 材料工学科 4年	パソコンソフトの技能を競う「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト（MOS）」世界学生大会2012日本大会において金賞を受賞し、アメリカ合衆国ユタ州ラスベガスで開催されたMOS世界学生大会2012パワーポイント2007部門において世界第8位となった。

賞	氏名・団体名	所属	大会名／種目／成績大会名
優秀賞（個人）	近江谷 一樹	工学資源学研究科 博士前期課程 1年	第32回全日本国公立大学スキー選手権大会 男子大回転／第1位
奨励賞（団体）	男子ハンドボール部		平成24年度東北地区大学体育大会／優勝
〃	柔道部		第54回全国国立大学柔道優勝大会／第3位
奨励賞（個人）	阿部　大紀	教育文化学部 学校教育課程 4年	平成24年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子73kg級／優勝
〃	進藤　恭孝	教育文化学部 学校教育課程 3年	第41回東北学生陸上競技選手権大会 やり投げ／第1位
〃	菅野　拓矢	工学資源学部 地球資源学科 1年	第5回北部学生選手権水泳競技大会 男子400m個人メドレー及び男子400m自由形／第1位

副学長表彰被表彰者一覧

賞	氏名・団体名	所属	大会名／種目／成績
課外活動（団体）	女子ハンドボール部		第47回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／第3位
〃	吹奏楽団		全日本吹奏楽コンクール第55回東北支部大会／銀賞
〃	水泳部		第27回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子総合／優勝
〃	軟式野球部		第35回全日本大学軟式野球選手権大会 奥羽地区予選大会／優勝
〃	医学部男子バドミントン部		第42回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 男子団体戦／優勝
〃	医学部女子卓球部		第41回北日本医科歯科学生卓球大会 女子団体戦／優勝
〃	医学部剣道部		第45回北日本医科歯科学生剣道大会 男子団体及び女子団体／優勝
課外活動（個人）	加納　司	工学資源学部 材料工学科 4年	第47回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／ベスト7
〃	飛田　壮平	教育文化学部 学校教育課程 2年	第47回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／ベスト7
〃	大平　敦	教育文化学部 学校教育課程 4年	第57回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦／ベスト7
			第34回ミニミニカップ 東日本学生ハンドボール選手権大会／優秀選手賞
〃	佐藤　彩花	教育文化学部 学校教育課程 3年	第47回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／得点王
〃	栗田 沙也加	教育文化学部 学校教育課程 3年	第47回東北学生ハンドボール春季リーグ戦／ベスト7

賞	氏名・団体名	所　属	大会名／種目／成績
課外活動（個人）	藤田 健人	工学資源学部 情報工学科 2年	第27回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子100m平泳ぎ及び男子200m平泳ぎ／第1位
			第5回北部学生選手権水泳競技大会 男子100m平泳ぎ及び男子200m平泳ぎ／第2位
〃	米田 拓馬	工学資源学部 土木環境工学科 1年	第5回北部学生選手権水泳競技大会 男子200m個人メドレー／第2位
〃	藤田 健人	工学資源学部 情報工学科 2年	第27回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子400mメドレーリレー／第1位
	星　豪志	医学部　保健学科 2年	
	菅野 拓矢	工学資源学部 地球資源学科 1年	
	米田 拓馬	工学資源学部 土木環境工学科 1年	
〃	荒谷　志	工学資源学部 情報工学科 2年	第27回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 男子800mフリーリレー／第1位
	星　豪志	医学部　保健学科 2年	
	菅野 拓矢	工学資源学部 地球資源学科 1年	
	米田 拓馬	工学資源学部 土木環境工学科 1年	
〃	鮎川　郁	医学部　医学科 4年	第24回北日本医科学生陸上競技大会 女子4×100mリレー／第1位
	小黒 希理	医学部　医学科 3年	
	池田　葵	医学部　保健学科 2年	
	小野寺 美晴	医学部　保健学科 1年	
〃	鮎川　郁	医学部　医学科 4年	第24回北日本医科学生陸上競技大会 女子4×400mリレー／第1位
	小黒 希理	医学部　医学科 3年	
	池田 羽純	医学部　保健学科 1年	
	小野寺 美晴	医学部　保健学科 1年	
〃	小黒 希理	医学部　医学科 3年	第24回北日本医科学生陸上競技大会 女子100m／第1位
〃	柿沼 千夏	医学部　医学科 3年	第24回北日本医科学生陸上競技大会 女子3000m／第1位
〃	池田 羽純	医学部　保健学科 1年	第24回北日本医科学生陸上競技大会 女子走高跳／第1位
〃	高橋　凪	医学部　医学科 3年	第50回東北地区医科学生卓球大会 女子シングルス／第1位
〃	田中 菜摘子	医学部　医学科 6年	第47回北日本医科学生水泳大会 女子50mバタフライ及び女子100mバタフライ／第1位
〃	佐野 佳美	医学部　保健学科 2年	第47回北日本医科学生水泳大会 女子100m平泳ぎ／第1位
〃	金森 啓太	医学部　医学科 5年	第6回秋季北日本医歯薬学生ソフトテニス大会 男子ダブルス／第1位
	浅井 真成	医学部　医学科 3年	
〃	阿部　茜	医学部　医学科 3年	第45回北日本医科歯科学生剣道大会 女子個人／第1位

外国人留学生数

平成25年5月1日現在

21カ国・地域	学部												小計				大学院												小計				合計
	教育文化学部				医学部				工学資源学部								教育学研究科				医学系研究科				工学資源学研究科								
	正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		正規		非正規		
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	
中　国		8 (3)	1 (1)	21 (16)						25 (7)		1		33 (10)	1 (1)	22 (16)						1				18 (4)				19 (4)			75 (31)
マレーシア										32 (8)				32 (8)												3				3			35 (8)
ベトナム									1	25 (7)		1	1	25 (7)		1									3 (2)	2 (1)			3 (2)	2 (1)			32 (10)
韓　国		4 (4)	1 (1)	11 (6)		1						2		5 (4)	1 (1)	13 (6)																	19 (11)
モンゴル										2		1		2		1										2 (2)				2 (2)			5 (2)
インドネシア									1				1						1 (1)							3 (2)				3 (2)	1 (1)		5 (3)
ボツワナ																									1 (1)	2 (1)	1 (1)		1 (1)	2 (1)	1 (1)		4 (3)
アフガニスタン																										2	1			2	1		3
エジプト																			1		1								1		1		2
ルーマニア				2 (2)												2 (2)																	2 (2)
ケニア				2 (1)												2 (1)																	2 (1)
アメリカ				2												2																	2
フィンランド												2				2																	2
イスラエル				2 (1)												2 (1)																	2 (1)
タ　イ																									1 (1)				1 (1)				1 (1)
フィリピン																					1 (1)								1 (1)				1 (1)
パプアニューギニア																										1				1			1
インド									1				1																				1
バングラデシュ										1				1																			1
チ　リ			1												1																		1
ポルトガル			1 (1)												1 (1)																		1 (1)
計	0	12 (7)	4 (3)	40 (26)	0	1	0	0	3	85 (22)	0	7	3	98 (29)	4 (3)	47 (26)	0	0	2 (1)	0	2 (1)	1	0	0	5 (4)	33 (10)	2 (1)	0	7 (5)	34 (10)	4 (2)	0	197 (75)

※(　　)内は、女子学生数(内数)　※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。
※「非正規」とは、日研生・教研生・特別聴講学生／特別研究学生(交換留学生)・科目等履修生・研究生を指す。
※「私費」には、政府派遣留学生(マレーシア・インドネシア)を含む。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉

平成24年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	中　国	2
	パプアニューギニア	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中　国	1

〈外国人客員研究員数〉

平成24年度受入実績

部局名	国・地域	人数
医学系研究科	ベラルーシ	2
工学資源学研究科	イラン	1
	ウクライナ	1

〈非常勤研究員数〉

平成24年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	インド	1
	ガーナ	1
	中　国	1
	モンゴル	1
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	中　国	6

国際交流協定校

〈大学間協定（21カ国地域43大学）〉

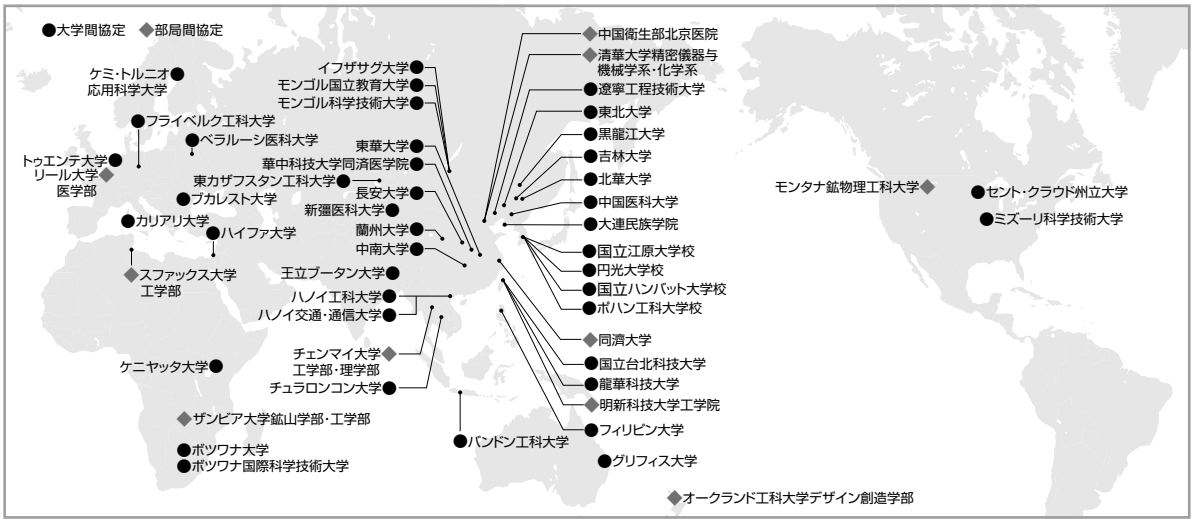
平成25年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
アジア	インドネシア	バンドン工科大学	平成24年 7月12日
	韓　国	国立ハンバット大学校	平成13年 6月 8日
		円光大学校	平成19年10月12日
		国立江原大学校	平成20年 3月24日
		ポハン工科大学校	平成21年10月22日
	タ　イ	チュラロンコン大学	平成24年11月28日
	台　湾	龍華科技大学	平成17年 7月15日
		国立台北科技大学	平成17年 7月18日
	中　国	黒龍江大学	昭和63年10月19日
		中国医科大学	平成元年10月 6日
		中南大学	平成16年 8月24日
		遼寧工程技術大学	平成17年 4月20日
		大連民族学院	平成17年 6月27日
		蘭州大学	平成17年 8月 1日
		新疆医科大学	平成18年 2月20日
		吉林大学	平成19年 2月 6日
		東北大学	平成19年 8月 9日
		東華大学	平成21年12月 3日
		華中科技大学同済医学院	平成22年 3月24日
		長安大学	平成22年11月18日
		北華大学	平成24年11月20日
	フィリピン	フィリピン大学デリマン校	平成24年 9月24日
		フィリピン大学マニラ校	平成25年 2月 4日
	ブータン	王立ブータン大学	平成24年 6月14日
	ベトナム	ハノイ工科大学	平成20年12月 2日
		ハノイ交通・通信大学	平成20年12月 3日
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	平成21年10月22日
		イフザサグ大学	平成22年 7月22日
		モンゴル国立教育大学	平成22年 7月23日
アフリカ	ボツワナ	ボツワナ国際科学技術大学	平成21年10月23日
		ボツワナ大学	平成23年 3月31日
	ケニア	ケニヤッタ大学	平成22年 3月 2日
オセアニア	オーストラリア	グリフィス大学	平成 6年 6月29日
北米	アメリカ	セント・クラウド州立大学	平成 8年 7月24日
		ミズーリ科学技術大学	平成23年 3月 7日
中東	イスラエル	ハイファ大学	平成22年 9月24日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	イタリア	カリアリ大学	平成21年12月 9日
	オランダ	トゥエンテ大学	平成19年10月23日
	カザフスタン	東カザフスタン工科大学	平成23年 6月 8日
	ドイツ	フライベルク工科大学	平成24年 7月 4日
	フィンランド	ケミ・トルニオ応用科学大学	平成21年10月23日
	ベラルーシ	ベラルーシ医科大学	平成16年 7月26日
	ルーマニア	ブカレスト大学	平成22年 9月28日

〈部局間協定（8カ国地域15学部等）〉

平成25年5月1日現在

国・地域名		大学名	締結年月日
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー			
アジア	中　国	同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成23年 9月 2日
医学系研究科			
アジア	中　国	中国衛生部北京医院	平成 7年11月14日
ヨーロッパ（NIS諸国を含む）	フランス	リール大学医学部	平成23年 4月13日
工学資源学研究科			
アジア	タ　イ	チェンマイ大学工学部	平成11年 7月12日
		チェンマイ大学理学部	平成11年 7月12日
	台　湾	明新科技大学工学院	平成22月 4月12日
	中　国	清華大学精密儀器与機械学系	平成19年 3月 1日
		清華大学化学系	平成20年 1月17日
		同濟大学材料科学与工程学院	平成22年 5月24日
		同濟大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	平成22年 5月24日
アフリカ	ザンビア	ザンビア大学鉱山学部	平成15年 1月20日
		ザンビア大学工学部	平成15年 3月12日
	チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日
オセアニア	ニュージーランド	オークランド工科大学デザイン創造学部	平成24年11月27日（覚書交換）
北米	アメリカ	モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年 6月24日



公開講座

〈平成24年度実施〉

講座名	内　　容	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
英語の詩を読んでみませんか？ ～対訳で味わう 英詩の世界と英国文化～ （全5回）	詩は難しい、ましてや英語で書かれた詩など…と思われるかもしれないが、鑑賞の鍵となる点を理解して詠めば、豊かな英文学の世界が目の前に広がってくる。19世紀以降の英詩を扱い、様々な内容と形式の英詩を対訳で詠みながら、ひとつひとつの言葉を味わいつつ、それぞれの詩の特質を探り、英文学の柱である詩を通じて、英国文化に触れた。	24年6月29日（金）～ 7月27日（金）	一般市民	16	教育文化学部
大人のものづくり （全6回）	機械工作や電子工作に興味がある大人の方に向けて、講義と実習を通して、ものづくりに関する技術を分かりやすく解説した。	24年8月30日（木）～ 10月4日（木）	一般市民	11	工学資源学研究科
長唄の魅力を味わう （全4回）	長唄についての基礎的なポイントを解説。最終回では平成21年度日本芸術院賞のほか、多数受賞されている長唄三味線方演奏家今藤政太郎師を招いきレクチャーコンサートを企画した。	24年9月2日（日）～ 9月29日（土）	一般市民	49	教育文化学部
総合自殺予防学 インテンシブコース ～地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進～ （全4回）	地域等で対策に関わっている実務の専門家を対象に、今後の自殺予防に役立てることを目指し開催した。「地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進」をテーマとして，幅広い分野の講師を招き、秋田における心の健康づくり・自殺予防対策の地域・職域における実践について考えた。	24年10月5日（金）～ 11月2日(金)	保健師， 行政担当者 サポーター	18	医学系研究科 公衆衛生学講座
文化の中のインドネシア語 （全4回）	インドネシア語は世界で4番目に多くの人に話されていることばであり、様々な民族を一つにまとめる言語でもある。本講座ではインドネシア語を学ぶとともに、バリ、ジャワに代表される舞踏、演劇、映画の紹介を交えながら「改革後」の新しいインドネシアに触れた。	24年10月14日（日）～ 11月3日(土)	一般市民	17	教育文化学部
睡眠について ～保健学の視点から～ （全4回）	医師の視点、看護師の立場、臨床心理士の視点から睡眠についての講演を行った。	24年11月7日（水）～ 11月28日（水）	一般市民	28	医学系研究科 保健学専攻
声楽講座 ～発声法と歌唱法～ （全4回）	滝廉太郎作曲の「花」など、春を題材にした楽曲を中心に取り上げ、基礎的な発声法や歌唱法を学習した。伸びやかな声が出るように学習を進めながら、共に学び合い、交流し、歌う喜びや楽しさを感じた。	25年3月3日（日）～ 3月24日（日）	一般市民	18	教育文化学部

平成25年度開催予定の公開講座は
〈ホームページ〉http://www.pcix.akita-u.ac.jp/public/pu_exhibition.html　からご覧いただけます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成25年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	〃	
	平成20年10月24日	大館市	〃	
	平成20年11月 5日	小坂町	〃	
	平成20年11月17日	能代市	〃	
	平成21年 2月 7日	横手市	〃	
	平成21年10月 6日	北秋田市	〃	
	平成22年 5月26日	大仙市	〃	
	平成22年12月10日	八峰町	〃	
	平成23年 2月17日	男鹿市	〃	
	平成23年 5月13日	美郷町	〃	
	平成24年 2月17日	潟上市	〃	
	平成24年11月20日	湯沢市	〃	
大　学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	〃	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	〃	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	〃	平成22年4月1日からは 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	〃	
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	〃	
	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	〃	
その他 企業等	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	北都銀行	〃	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	株式会社日本政策金融公庫 秋田支店	〃	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動にする協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス･金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	〃	

〈部局間協定〉

平成25年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
工学資源学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	〃
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	〃
	平成21年 2月 9日	北海道大学工学部	文部科学省選定「資源開発人材育成プログラム」における単位互換協定
	平成24年 7月 2日	東北大学多元物質科学研究所	学部間協定
	平成24年11月 1日	早稲田大学大学院創造理工学研究科	〃

役員数

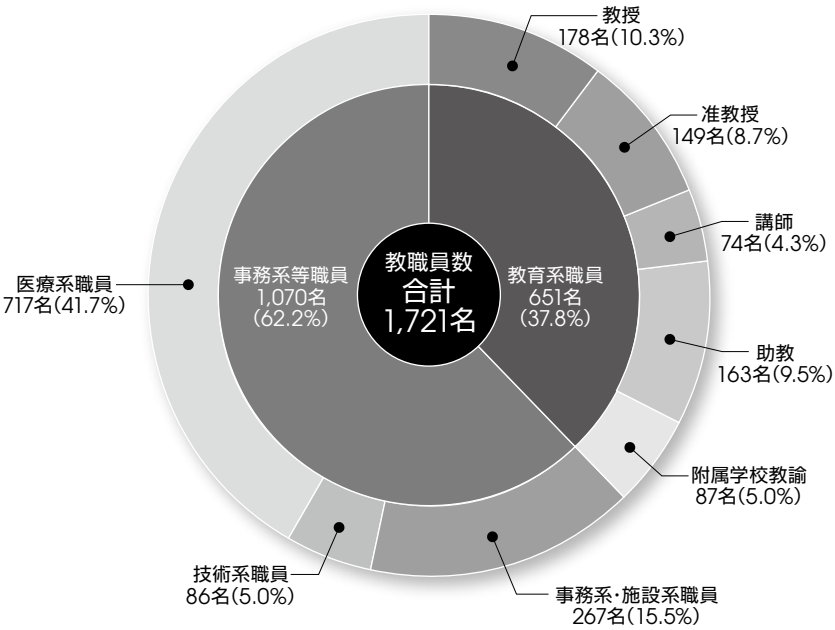
平成25年5月1日現在

区　分	学　長	理　事	監　事	計
学　長	1			1
理　事		5（1）		5（1）
監　事			2（1）	2（1）
計	1	5（1）	2（1）	8（2）

※（　）内の数は非常勤で内数

教職員数

平成25年5月1日現在

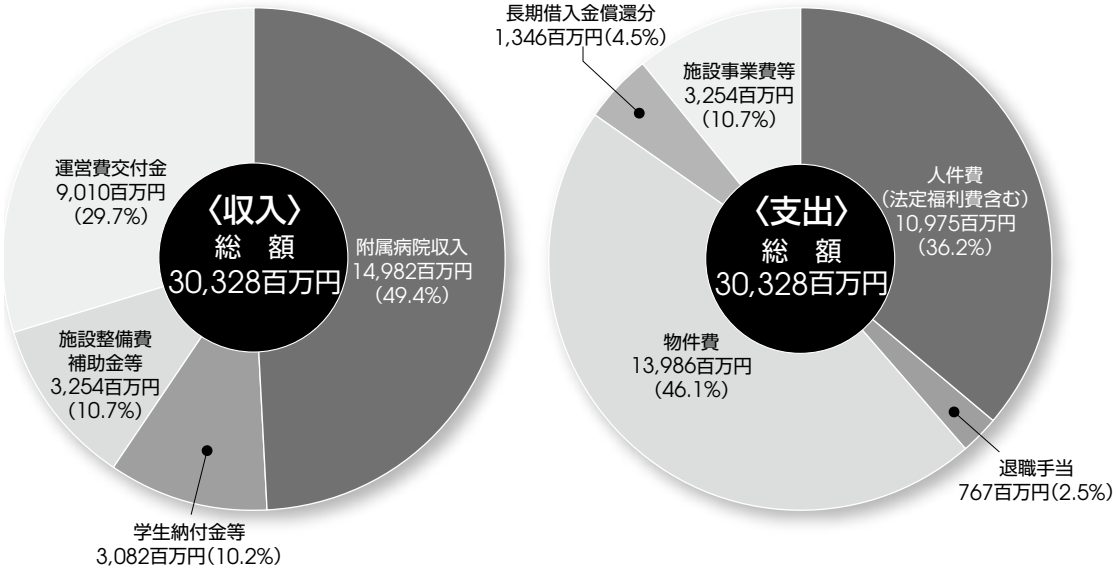


職別・男女別

平成25年5月1日現在

区分	教　授		准教授		講　師		助　教		附属学校教諭		事務系・施設系教員		技術系職員		医療系職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	158	88.8	133	89.3	65	87.8	108	66.3	47	54.0	172	64.4	71	82.6	127	17.7
女	20	11.2	16	10.7	9	12.2	55	33.7	40	46.0	95	35.6	15	17.4	590	82.3
合計	178		149		74		163		87		267		86		717	

平成25年度予算



※金額は平成25年度予定額であり、上記収入および支出には産学連携等研究費および寄附金に係る経費は含まない。

外部資金受入状況

単位：千円

名　称	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	59	77,934	59	58,659	56	75,131	62	59,464	71	67,480
受託研究	73	276,786	86	312,251	84	371,986	110	273,757	131	344,289
奨学寄附金	830	485,359	794	515,847	801	643,222	769	816,153	705	423,299
寄附講座・部門	2	38,300	3	75,800	5	216,800	6	222,600	6	226,800
合　計	964	878,379	942	962,557	946	1,307,139	947	1,371,974	913	1,061,868

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金を含まない。

平成25年度科学研究費助成事業採択状況

単位：千円　平成25年4月内定時

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)	7	26,000	7,800	33,800
基盤研究(A)	1	5,900	1,770	7,670
基盤研究(B)	17	78,100	23,430	101,530
基盤研究(C)	146	169,200	50,760	219,960
挑戦的萌芽研究	20	21,400	6,420	27,820
若手研究(A)	2	15,100	4,530	19,630
若手研究(B)	51	58,000	17,400	75,400
研究活動スタート支援	1	375	112	487
奨励研究	9	4,200	―	4,200
合　計	254	378,275	112,222	490,497

※金額は平成25年度交付予定額

土地・建物

平成25年5月1日現在

区分			建物延床面積(㎡)	土地(㎡)
手形地区	教育文化学部	学　部	21,456	200,277
		附属教育実践研究支援センター	560	
	工学資源学部	学　部	29,585	
		附属鉱業博物館	3,814	
		附属環境資源学研究センター	2,975	
		附属ものづくり創造工学センター	684	
	附属図書館		4,604	
	総合情報処理センター		1,003	
	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		2,878	
	産学連携推進機構、ベンチャーインキュベーションセンター、百周年記念館		2,151	
	放射性同位元素センター		338	
	国際資源学教育研究センター		1,131	
	保健管理センター		561	
	大学会館(クレール)		3,322	
	本部管理棟 他		9,195	
	総合研究棟		4,266	
	体育関係施設		3,827	
	課外活動施設		1,396	
	小　計		93,796	
本道地区	医学部	学　部	34,160	168,219
		附属病院	57,641	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	附属図書館医学部分館		1,717	
	バイオサイエンス教育・研究センター		7,359	
	環境安全センター		366	
	本道会館(メディココ)		1,268	
	体育関係施設		1,079	
	課外活動施設		396	
	本道寮(女子)		1,317	
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,878	
	保育所		334	
	小　計		113,862	
保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		1,212	68,807
	教育文化学部附属小学校		7,680	
	教育文化学部附属中学校		7,562	
	教育文化学部附属特別支援学校		3,338	
	小　計		19,792	
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		9,923	27,847
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		6,089	
	上記以外		1,155	
	小　計		17,167	
合　計			244,617	465,150

刊行物一覧

担　当	刊行物等名	発行回数／年	発行時期
評価センター	評価センター年報・研究紀要	1回	3月
企画広報課	秋田大学概要	1回	
	秋田大学広報誌「Aprire（アプリーレ）」	4回	4月・7月 10月・1月
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL年報	1回	6月
総合情報処理センター	秋田大学総合情報処理センター広報	1回	3月
附属図書館	図書館だより	1回	10月
	秋田大学情報探索ガイドブック	1回	3月
教育推進総合センター	秋田大学教養基礎教育研究年報	1回	3月
	教育推進総合センターフォーラム	2回	10月・2月
地域創生課	キャンパスガイドマップ	1回	
学生支援総合センター	キャンパスライフ	1回	4月
保健管理センター	保健管理概要	1回	12月
入試課	秋田大学入学案内	1回	5月
国際交流センター	国際交流センター紀要	1回	
	留学の手引き（日本語版・英語版）	1回	
	あきた留学生交流	1回	2月
国際資源学教育研究センター	国際資源学教育研究センター活動報告	1回	
施設企画課	秋田大学環境報告書※HP上で公表	1回	9月
環境安全センター	秋田大学環境安全センター報	1回	5月
教育文化学部	秋田大学教育文化学部案内	1回	5月
	秋田大学大学院教育学研究科（修士課程）紹介	1回	
	秋田大学教育文化学部案内（英語版）	不定期	
	秋田大学教育文化学部研究紀要 （教育科学、自然科学、人文科学・社会科学）	1回	3月
附属教育実践研究支援センター	教育実践研究紀要	1回	5月
	臨床心理相談研究	1回	3月
医学系研究科・医学部	秋田大学大学院医学系研究科・医学部　医学部附属病院　概要	1回	6月
	秋田大学医学部保健学科案内	1回	5月
	秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要	2回	10月・3月
附属病院	秋大病院ネットワーク	2回	
	秋田大学医学部附属病院年報	1回	7月
工学資源学研究科・工学資源学部	工学資源学部・大学院工学資源学研究科概要	1回	6月
	学部案内ERA 「Engineering Resource Science　Akita University」	1回	4月
	秋田大学大学院工学資源学研究科研究報告	1回	10月
	TEXNE（通信教育講座機関誌）	1回	3月

各連絡先･所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名　称	電話番号	所在地
総務課総務担当　（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価センター	018-889-2937	
附属図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
総合情報処理センター	018-889-2499	
ベンチャー・ビジネス･ラボラトリー	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
ベンチャーインキュベーションセンター	018-889-2680	
国際交流センター	018-889-2856	
教育推進総合センター	018-889-3191	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
地域創生センター	018-889-2270	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-3183	
インフォメーションセンター	018-889-2931	
教育文化学部　総務担当	018-889-2509	
教育文化学部　附属教育実践研究支援センター	018-889-2700	
工学資源学部　総務担当	018-889-2305	
工学資源学部　附属ものづくり創造工学センター	018-889-2806	
工学資源学部　附属環境資源学研究センター	018-889-2460	
工学資源学部　附属地域防災力研究センター	018-889-2305	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
工学資源学部　附属鉱業博物館	018-889-2461	

手形地区

〈本道地区〉

名　称	電話番号	所在地
医学部　（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部　附属病院　（総合案内）	018-834-1111	
医学部　附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
バイオサイエンス教育･研究センター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育･研究センター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育･研究センター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
生体情報研究センター	018-884-6467	
環境安全センター	018-884-6192	
附属図書館　医学部分館	018-884-6052	

本道地区

〈保戸野地区〉

名　称	電話番号	所在地
教育文化学部　附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部　附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部　附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部　附属特別支援学校	018-862-8583	

保戸野地区

〈その他施設等〉

名　称	電話番号	所在地
西谷地寮（男子）	018-833-2856	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮（女子）	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮（女子）	－	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	－	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	－	〒010-0041 秋田市広面字高田4
乳頭ロッジ	0187-46-2110	〒014-1201 仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-228
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス･イノベーションセンター 606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map

本道地区施設配置図

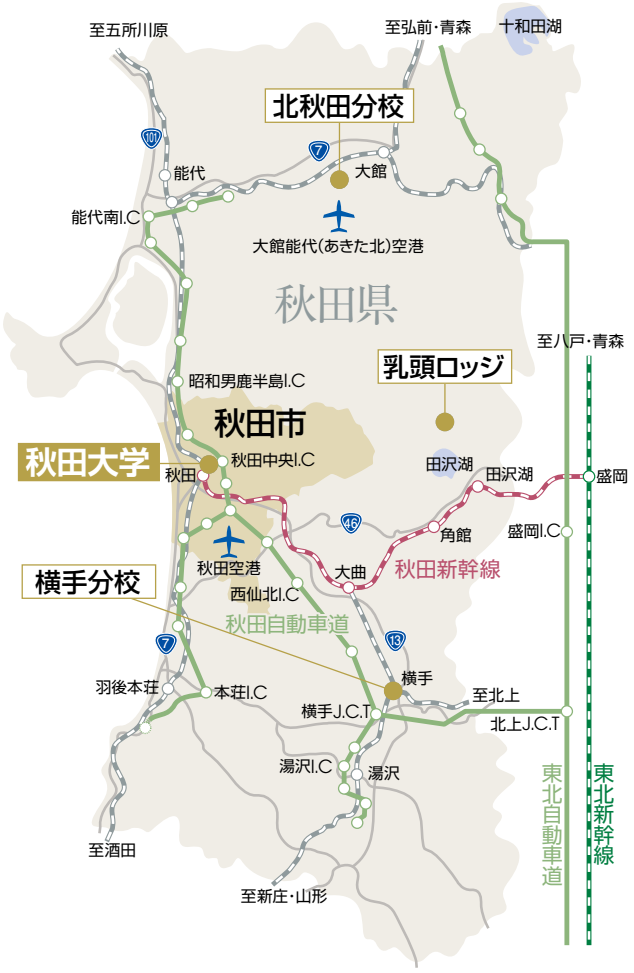
Hondo Campus Map

保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map

アクセス

Access



〈秋田まで〉

平成25年4月現在

東京から	羽田空港―秋田空港(1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅―秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港―秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港―秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港―秋田空港(約1時間15分)
ソウルから	仁川国際空港―秋田空港(約2時間15分)

秋田空港～秋田駅間リムジンバス	秋田空港―秋田駅西口(35分)
	秋田空港―秋田駅東口(30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

平成25年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形地区	手形山大学病院線	西口④番	秋田大学前(約6分)
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道地区	手形山大学病院線	西口④番	大学病院前(約15分)
	赤　沼　線	西口⑬番	
	太　平　線		
	松崎団地線		
	駅　東　線	東口①番	
	赤　沼　線	東口②番	
保戸野地区	神田旭野線	西口③番	原の町(約10分)
	神田土崎線		
	添　川　線		

学　年　暦

●学年

前　期……　4月1日～ 9月30日

後　期……10月1日～ 3月31日

●式典

入学式……4月　5日

卒業式……3月22日

●休業（平成25年～平成26年）

夏季休業……　8月　9日～ 9月29日

冬季休業……12月26日～ 1月　8日

春季休業……　2月19日～ 4月　3日

学　章

秋田大学の学章については、昭和24年9月16日に秋田大学開学記念として、懸賞募集の結果、臨時評議会において1等当選となった図案である。
3枚の秋田蕗の葉に、大学の文字を配したもので、当時の鉱山学部教官中村譲氏の考案による。その後秋田大学のシンボルマークとして使用されてきたが、平成16年4月1日に学章として定められ、同時に校旗の制式も定められた。

秋田大学 概要 平成25年度

［編集発行］
国立大学法人 秋田大学 企画広報課
秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502
TEL：018-889-3019　FAX：018-889-2219
E-mail：kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
http://www.akita-u.ac.jp